

# 事業報告書

令和3年（2021）年度



あったかいが  
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

## 2021 年度 社会福祉法人アドベンチスト福祉会事業報告

### 【希望と平和に向けて進む】

2021 年度はアドベンチスト福祉会の各事業を通して多くの方々が希望を得、平和を体験できるようにという願いを込めて上記の表題を掲げました。

アドベンチスト福祉会の活動は、個人と地域社会に対して福祉サービスを通して貢献することを第一義としますが、提供されるサービスは揺るぎない根拠に基づいている必要があります、その目的も明確でなくてはなりません。法の下に運営されるアドベンチスト福祉会の福祉の根拠は聖書にあり、運営の目的は個人と地域社会の現実に希望を掲げ、平和（幸福）の実現に向けて取り組むことです。

コロナ禍が各事業に大きく影響を及ぼす中、法人評議員会から求められていることは「経営改善」です。それは 2021 年度の目標であり、安定した収入を得ることは健全な事業運営を維持するために必要である、という理由によるものです。

特にシャローム横浜（特養）と沖縄事業の経営改善は急務でしたので、これに向けて一丸となって取り組みました。例えば、早いペースで入所を進める等、計画的に入退所のコントロールを行うことで特養の稼働率は上向きになり、V 字回復こそ果たせなかったものの、次年度以降に希望が持てる一定の回復を見ることが出来ています。

沖縄事業については、二つの事業所の条件による違いは見られましたが、前年度より大幅な収支の改善を果たすことが出来ました。

逆に、これまで安定していた事業所が収益を減らす結果も見られました。詳細は各責任者の報告に譲りますが、コロナ禍を含む地域の状況や高齢者を取り巻く社会環境はとても厳しくなっていることを実感します。

しかし、アドベンチスト福祉会が如何なる状況にあっても、事業を継続することが許されていることには意味があると信じます。我々の働きと存在が、常に弱さを抱えた方々の傍にあることを願いつつ、事業報告とします。

「あなたがたは喜びをもって出てきて、安らかに導かれて行く。山と丘とはあなたの前に声を放って喜び歌い、野にある木はみな手を打つ。いとすぎは、いばらに代って生え、ミルトスの木は、おどろに代って生える。これは主の記念となり、また、とこしえのしるしとなって、絶えることはない。」（イザヤ書 55 章 12.13 節）

アドベンチスト福祉会  
理事長 村本 英邦

## 2021年度事業報告

### 【人格（ペルソナ）の回復を求めて】

2021年度も、日本のみならず世界に大きな影響を与え続けたコロナ禍に明け暮れ、翻弄されていった年であったとも言えるでしょう。また、それに加えて、今世紀に入っても、このような事が起こっているのかとも思われる世界を震撼させる、ある国による侵略という国家暴力が行われました。私共の世界は今も尚、全く予想もつかない不安や焦燥にかられた状況を強いられる毎日でもあると言えます。このような状況の中で、この施設を利用し、また生活をしておられる利用者の方々の命と健康を守るために日夜、奮闘されている看護、介護職員、そして管理、栄養部門、その他の職員の皆様に、まず心から敬意を表し、感謝の気持ちを表わしたいと思います。そして何よりも、2021年度は、私共の施設から大きなクラスターが発生せず、日常生活が守られ、大きな変化もなく毎日を平和なうちに穏やかに過ごさせていただいていることを、天の父なる神様に心から感謝するものです。

2021年度は私共法人の働きにおいても、ある意味、緊張と困難、経済運営における厳しさを感じさせられる年でもありました。その状況の中、まだまだ安心はできない状況ではありますが、なんとか暗闇の中にも一条の光を見出しえるような状態まで持ち直し、改善の方向性も見え、新たな取り組みも実行できるようになってきている事は感謝なことでもあります。

私共は、これからも経営改善のために努力していく必要があることはいうまでもありません。それを前提として励むことは大切なことではありますが、それ以上に絶対に私共が忘れてはならない事があります。それは私共が福祉事業に携わる理由は何か、その理念は何をもって立っているのかという事です。それは即ち、「全ての人の中に、**神の像（かたち）、人格権（ペルソナ）の回復**を願う業である」ということであり、その聖句は「神は自分のかたち（Image of God）に人を創造された」（創世記1章27節）です。それは全ての人の中に**神の像（かたち）**を認め、それが特に欠如状態にされている人がいればいる人ほど、その回復、それも**人格権（ペルソナ）の回復**を伴う働きが必要とされていることを意味しているのであり、そして私共キリスト教福祉事業の働きは、その**人格権の回復を目指す働き**なのであるという事です。私共はその目的を忘れての事業はあり得ないことを覚えていきたいと思えます。

チャプレン 上前 至

## 2021 年度 法人本部 事業報告

室長 坂本 晋一

2021 年度はコロナ禍の影響が止まない中、アドベンチスト福祉会の理事・評議員の改選や、新たな経営陣体制となり、様々な課題に取り組んでいく年度であった。既に法人本部の事業計画とは別に、監事及び評議員会より強く求められた、法人収支改善計画の作成と実行を中心に取り組んでいった。

その取り組みの報告として、沖縄拠点、シャローム桜山拠点は、改善計画をほぼ実行できたが、シャローム横浜拠点の改善計画の達成状況 42%程だった。具体的には過去最高の特養年間入所者数（37 名）を得たが同時に、過去最高の退所者数（同数）でもあり、稼働率が伸びず改善には結びつかない厳しい一年だった。ただ、人件費を含む経費削減を職員と一体となって取り組んできたので、事業活動計算書の経常収支差額で 2694 万円ほど改善できた。この経常増減差額は過去 10 年間で最高の数字ではあるが、それでもまだ 2500 万円以上のマイナスがあり、2022 年度の継続した課題は稼働率をいかに事業計画通りの実績を残せるかに対策は絞られたと考えられる。

想定外だったのは、グループホーム拠点とケアプラザ拠点で、グループホーム拠点は法人内人事異動による人件費の上昇、ケアプラザ拠点は主に通所介護事業の稼働率の低下が原因で、ともに収支差額は大きくマイナスとなった。既に第 4 四半期より対策に取り組み、共に適正な人員配置と稼働率の対策に取り組んでいる。引き続き法人経営陣、職員と一体となって、収支改善に取り組んでいきたい。

法人本部事業計画の取り組みの報告としては、外国人介護人材の取組として今までの EPA 介護福祉士候補生から、特定技能介護職員の新たな雇用ができたことが大きい。国内在住で、看護、介護等経験のある特定技能介護職員で即戦力となった。支援体制も EPA 雇用の経験が生かされている。また、2020 年度に取り組めなかった、沖縄拠点への法人研修も実施でき、離れていてもアドベンチスト福祉会の一員としての理念の共有、再確認を行えた。今後も定期的に行っていく。シャローム横浜周辺の土地の確保と新たな事業に関しては資金計画も含め継続して検討中である。

収支改善に特に取り組んだ 1 年であったが、改善の方向性が見え、新たな取り組みも実行できた。引き続き、「いのちを敬い いのちを愛し いのちに仕える」の理念を基に、使命と役割を実践していくため強い情熱をもち、将来に残せる持続可能な事業を計画し、実践していく。

令和3年度事業報告 部門名	報告者：氏名
法人本部	坂本 晋一、上前 至（チャプレン）
I	<p><b>事業概況・実績報告</b></p> <p>1 シャローム横浜周辺地域での、持続可能な事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● シャローム横浜敷地周辺での場所の確認と検討 シャローム横浜周辺に新たな事業展開することは、将来に向けても重要な案件で、土地の確認と取得するための財源問題等、検討継続中であり、まだ具体的なものは何も決まっていない。時間はかかると思われるが慎重に取り組んでいきたい。また、2027年国際園芸博覧会開催に向けて横浜市の計画が進む中、周辺エリアは国道16号の道路拡張、博覧会用の駐車場区域が近くにできる予定で、環境も含め大規模な整備が進むことが見込まれる。通勤経路（公共交通機関等）の変わる可能性もあるため、引き続き情報収集を行っていく。</li> </ul> <p>2 主に沖縄事業を含む市外での、持続可能な事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 沖縄拠点の運営の目途は立った。また3月に、法人理念とアドベンチスト福祉会の一員であることの意義目的の理解を深めるべく、チャプレンによる、法人理念研修及びヒアリング・交流会を行った。</li> </ul> <p>3 外国人介護人材を含む、介護人材確保への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 今年度は、2022年度EPA介護福祉士候補者3名（2022年12月入職予定）のマッチングと4月、12月に特定技能介護職員2名を雇用した。また、1月にEPA介護福祉士候補生1名が介護福祉士国家試験、特定技能介護職員2名（准看護師資格有）が看護師国家試験に挑んだが、合格できなかった。全員次年度再チャレンジする。現在、EPA介護福祉士2名と介護福祉士候補生1名、特定技能介護職員2名計5名が在籍している。またその中の1名が日本語レベルN1と運転免許を取得し、更に看護師国家試験を受験するために現在準備している。日本在籍10年に近づく職員は近い将来永住権申請を検討している。それぞれが目標を定め、目的意識を持ち取り組んでいるので、引き続きできる範囲での支援を行っていききたい。</li> </ul> <p>4 チャプレンとしての取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 朝礼はコロナ対策対応を図りつつ、1月より再開した。これにより、日毎に法人理念を確認し、共に力を合わせてこのコロナ禍を乗り越えていく気持ちを新たにしていける機会にしている。又、これによって職員の霊的ケアをはかっている。</li> <li>● ボランティア活動が、ほとんど停止している状態であるが（裁縫、ガーデニングボランティアは除く）、今後どのようにしていくか、ボランティア委員の希望もあり、少しずつでも可能な限り活動再開できるよう検討を始めた。</li> <li>● キリスト教福祉施設として、家族で最後のお別れ会を希望している遺族には、納棺式を含めた最後の告別式を6件行った。また法人理念の根拠となっている聖書の学びを沖縄拠点のベーテル夢、ベーテルの夢Ⅱにおいて行い、本土との理念共有を忘れないようにはかかっていった。</li> </ul>



# 事業報告書

令和3年（2021）年度



あったかいが  
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

シャローム横浜

---

# 目次

令和3年度アドベンチスト福祉会

シャローム横浜 事業報告

施設長	1
相談・企画課	2
ケアサービス	
◇特別介護棟（3階）	5
◇一般虚弱棟（4階）	7
医務室	10
栄養課（食事サービス）	14
在宅サービス	
◇認知症対応型通所介護（ひまわり）	17
◇ケアマネジメント シャローム横浜	19
事務局	21
受託事業	
◇横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業	25
◇四季の森小学校放課後キッズクラブ	27

## 基本方針

## 【希望と平和に向けて進む】

2021 年度は、昨年度から続いているコロナ禍という厳しい状況の中で、8 月末にクラスター発生という大きな苦難に直面しました。3 階フロアの職員 1 名とご利用者 4 名の合計 5 名が新型コロナ陽性となり、22 日間もの間、行政の指示をもとに試行錯誤しながらゾーニングなどの感染対応を実施しました。その間、感染されたご利用者のうち 2 名については、保健所の協力により入院することが出来、無事に回復して戻ってくることが出来ました。また、感染による死亡者を一人も出すことなく、終息を迎えることが出来ました。しかし、ご利用者の隔離に対する影響として環境の変化や活動の減少等により、入所時から徐々に重度化しているご利用者にとっては、摂食量が極端に低下するなど、非常に大きな影響がありました。また、未知のウイルスに対して初めてワクチン接種を行ったことなどの様々な要因により、今年度の退所者数は 37 名と過去最高を記録しました。

また、クラスター期間中はショートステイの入退所を止めたことや、感染により、併設している認知症デイサービスなどの利用控えが起こってしまい、9 月の稼働率は特養・ショート併せて 87.56%と過去最低の稼働率となってしまいました。この影響から回復するために、感染対策の徹底や業務・人員の見直しなど、様々な取り組みを実施。経営改善に向けて職員が一丸となって取り組みました。その結果、特養の入所者数も 37 名と過去最高の人数を受け入れることが出来ました。また稼働率もショートステイは年間あたり 128.9%と特養の 91.53%を補填することが出来、特養・ショート併せて 94.29%の稼働率で終わることが出来ました。このことは、職員をはじめ、ご家族や医療機関・地域の皆様の理解と協力があつてこそであり、本当に感謝に堪えません。

コロナ禍という厳しい状況の中、法人評議員会からは、「経営改善」と強く求められています。特に特養の収支改善は急務の命題で、稼働率をいかに上げていくかを悩み、検討する中で、ショートステイの空床利用と現場の受け入れにより、下半期のショート稼働率が平均 143.87%となるなど、特養の空床分をかなり補填することが出来、一定の結果を出すことが出来ました。また、感染対策では、クラスターの経験が生かされ、職員で無症状の陽性者が出た時も、ご利用者や他の職員に感染することがなく終息できたことは、職員一人ひとりが標準予防策を守ってくれている証と感じています。

今回の結果でも目標数値には達していないため、今後も気を緩めることなく、コロナ禍という困難に立ち向かい、乗り越えていきたいと考えています。また、この厳しい状況で苦しんでいる方々にシャローム横浜を利用していただくことで、希望を与え、平和を実現したいと考えております。そして、法人理念にある通り、弱さを抱えた「いのち」に誠実に向き合うことが「キリストの生き方に倣う」ことであり、これを実行し続けることが事業の継続につながると心より信じ、前進していこうと思っております。

「きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなたがたに、それ以上よくして下さらないはずはあろうか」

(マタイによる福音書 6 章 30 節)

令和3年度事業報告 部門名	報告者：氏名
相談・企画課	原田 明子
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域での施設の役割を検討したが、施設内でもクラスターが発生するなど、コロナ禍による影響が大きく、実行できなかった。</li> <li>2 ご利用者が「自分らしく」生活を営んでいくために、まずはご利用者と職員が健康維持すること・感染予防すること・感染症を拡大させないことに最大限に取り組んだ一年であった。</li> <li>3 それぞれの職員が自主的に自分のなすべきことを理解し、実行できるチームに成長することができた。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入所 37 名・退所 37 名と過去最高の入退所となったが、コロナ禍の影響により、入所者確保が非常に難しかった。しかし、空床分はショートステイで活用できたため、厳しい状況の中で一定の稼働率を確保することができた。（特養 R3 年 9 月～R4 年 1 月稼働率 86～91% 台であったが、短期 140～160% 台の稼働率となった。）</li> <li>2 弁護士の助言により入所契約書などを改訂し、リスクに対する対策を強化した。</li> <li>3 ご家族に対しては、家族会を 3 回（5 月感染対策報告会・7 月納涼祭見学・10 月お別れ会について）開催。面会もアクリル板越しで行うなど、ご家族とのつながりを重視した。地域に対しては、積極的にショートステイで空床利用していただいたり、優先入所・やむをえない措置入所を 1 件ずつ受け入れ、地域に貢献した。</li> <li>4 ケアマネジメントグループ（ケアマネ・機能訓練指導員・音楽療法士）がお互いに情報交換し、役割を補完しながら、ご利用者に対して個別ケアを行うことができた。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 稼働率は特養 91.53%、短期 124.68%、合計 94.29%と目標には届かなかったが、感染対策を実施する中で稼働率を持ち直すことができたのは、他部門や近隣の関係機関との協働ができた証である。</li> <li>2 待機者リストを 3 日以内に作成し、常時待機者 3 名を確保できた。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神科病院からの入所は 3 名のみであったが、ロングショートからの入所が 14 名とショートとの連携が稼働率確保に大きな役割を果たした。今後に生かしていきたい。</li> <li>2 個別のケースについて、認知症対応型通所介護ひまわりやケアマネジメントシャローム横浜と随時情報共有を行った。</li> <li>3 コロナ禍により、面会は大型パネル越しに実施。納涼祭はご家族がベランダから見学とし、家族会やケアプラン会議はダイホールでソーシャルディスタンスを保ち開催した。</li> <li>4 弁護士と相談し契約書類の見直しを適時実施した。</li> </ol>

<p>V</p>	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コロナ禍の影響で速やかに面接をすることが困難であり、先方の病院や施設の都合で実調がオンラインの場合があり、情報収集が難しかったが、円滑に入所できるよう努めた。</li> <li>2 行政からの「やむをえない措置」や「優先入所依頼」についてはその都度内容を検討し、受け入れを行った。（やむをえない措置 1件、優先入所依頼 1件）</li> <li>3 ケアマネジメントシャローム横浜・ひかりが丘地域ケアプラザ・シャローム桜山と円滑な連携を取り、緊急のショートステイに対応した。</li> <li>4 弁護士と重要事項説明書と入所契約書の内容を協議し、連帯保証について追記した。</li> <li>5 職員間の情報共有は、メールやファーストケアを活用。また希望するご家族とはメールでの情報交換を行い、連絡等の効率化を図った。</li> <li>6 各種計画書はケアプラン会議で各職種と情報共有を行い、その内容を個別の計画書に書き込むことで、その整合性と質の向上を図った。</li> <li>7 課題やニーズについては、随時カンファレンスを開催。各職種間で情報共有して課題解決を図った。</li> <li>8 嚥下困難者にも可能な限り機能訓練や音楽療法に参加して頂き、声を出すこと・上半身や顔の筋肉を使うことで安全に食事を摂ることを目指した。また家族や栄養課と連絡を取り、ご利用者の嗜好に合わせた飲食物の提供などを心掛けた。</li> <li>9 コロナ禍が長引く中でどのような看取りができるのか、各職種と話し合いを重ねた結果、看取りが近づいた時には直接ご家族と過ごす時間を作ることができた。</li> <li>10 施設内でクラスターが発生したが、随時正しい情報をすべての家族や関係者（ショートステイの担当ケアマネジャーを含む）に向けてホームページや郵便、FAXなどで伝達した。また重度化が見られたケースについては、個別に電話などで情報提供を行った。</li> </ol>
<p>VI</p>	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コロナ禍が長引いたためにオンラインでの面会を企画したが、ご利用者の居室の場所によってWi-Fiがつながりにくい場所があり、断念せざるをえなかった。今後さらにICTを活用するには、環境の整備が不可欠である。</li> <li>2 弁護士により入所契約書などを見直すことができた。今後は各種ハラスメントや料金の滞納等を法人全体の問題として、スムーズに解決する方法を考えていく必要である。</li> </ol>
<p>VII</p>	<p><b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成31年度からの案件である重篤事故に関しては弁護士が入り保険適用にて和解解決に至った。今後は、この貴重な体験をリスクマネジメントに生かしていきたい。</li> <li>2 感染症と共存するためにオンラインやICTを有効に活用するために環境整備が不可欠である。</li> </ol>

【表1】ショートステイ新規利用相談（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25	20	25	20	18	15	18	18	20	15	18	9	221

【表2】特養入所相談（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
14	16	13	11	20	7	17	12	12	9	20	15	166

【表3】特養待機者面接（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4	0	4	4	1	9	8	2	3	0	2	1	38

【表4】入退所の状況

(1) 年度中に入所又は退所した者の数(人)

R3.4.1在所者数	入所者数	退所者数	R4.3.31在所者数
106	37	37	106

(2) 年度中に入所した者の入所時における要介護度別内訳(人)

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
0	1	6	15	15	37

(3) 年度中に入所した者の生活状況及び入所者数(人)

生活状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	4
シャロームショートステイ	1	1	1	1	0	0	0	3	1	1	3	2	14
認知症高齢者グループホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
介護老人保健施設	0	1	1	0	2	0	0	2	0	2	0	0	8
病院	0	0	0	1	1	3	1	0	2	0	0	1	9
有料老人ホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
他法人ショートステイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護療養型医療施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入所者数	1	2	2	2	3	3	3	5	4	3	3	6	37

(4) 年度中に退所した者の理由及び退所者数(人)

退所理由	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病院で死亡者数	0	0	2	0	1	0	2	0	0	1	1	1	8
施設看取り者数	1	1	3	3	5	3	3	2	2	0	1	1	25
長期入院退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
転院退所	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	4
自宅へ退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者数	1	1	5	4	6	3	5	2	3	2	3	2	37

【表5】在籍者の状況について(令和3年3月31日現在)

(1) 年齢構成(歳)

平均年齢	87.47	男性	85.04	女性	88.13
------	-------	----	-------	----	-------

年齢	~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~	合計
男性	1	2	0	4	5	4	8	2	26
女性	2	0	6	3	16	23	19	11	80
計	3	2	6	7	21	27	27	13	106

(2) 在籍者の要介護度別内訳(人)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男性	1	2	8	5	10	26
女性	4	3	13	27	33	80

(3) 入院者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
入院者数	3	4	7	6	6	5	5	3	5	5	5	5	59	4.9
延べ入院者数	3	4	9	7	6	5	5	3	5	5	7	5	64	5.3
延べ入院日数	19	45	87	55	71	64	43	28	37	79	44	50	622	51.8

【表6】緊急ショートステイ受入件数(件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	3

令和3年度事業報告 部門名	報告者：氏名
ケアサービス課 特別介護棟	山田 康裕・竹内 一平
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コロナ禍によりクラスターが発生するなど、感染症対策を行いながらの日々であったことと、人員調整・経費削減を同時に実施してきたため、「いのち」に寄り添うケアを意識した取り組みによる法人理念の具体化についての検討・実施に至ることが出来なかった。</li> <li>2 相談企画課・看護課と連携してご家族とのやり取りなどを充実させることにより、ご利用者が施設での生活の中で「自分らしく」生活できるよう支援することができた。しかし在宅との連携を含めて、支え合い・助け合う運営までには至らなかった。</li> <li>3 コロナ禍での日々の中で、感染症対策を意識し業務を実施することが出来た。特に感染拡大時（クラスター発生時）には最小限の感染で終息することができた。</li> <li>4 自ら考え行動できる人材の育成を実践するにあたり、職員一人一人が均等に業務を実施できるよう、勤務調整や指導を実施し、人材の育成を行うことができた。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ケアの見直し・向上について、毎月のケアプラン時および、臨時カンファレンスを実施し日々変化していくご利用者に対してケア方法の検討・実施をおこなった。</li> <li>2 日々の標準予防策や消毒薬の携帯・食事介助時のフェイスシールド着用など、変化する新型コロナへの対策を実施。クラスター発生時には、日々の感染症対策を継続しつつ、緊急時における業務内容の変更を実施して介護業務を継続することができた。</li> <li>3 3階・4階の役職者間でのコミュニケーションを活発にすることにより、職員不足等、必要な人員を必要な場所に配置するなど、臨機応変に対応することができた。</li> <li>4 コロナ禍により様々な制限があったため、新たな研修方法構築はできなかったが、職員教育委員会主催研修をはじめ、喀痰吸引研修・認知症実践者研修・看取りについての研修等を実施し、職員の知識・技術の向上を図る事ができた。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 特養稼働率 94.29% 感染症・退所者数の増加の影響を多く受けた1年となった。</li> <li>2 喀痰吸引研修（基本研修）修了者9名。</li> <li>3 認知症実践者研修修了者1名。</li> <li>4 認知症実践者研修修了者に意見や対応策など求める事はあったが、月1回の利用者カンファレンス実施は出来なかった。しかし、ご家族やご利用者本人からの要望を可能な限り取り入れることで「自分らしく」生活を営めるよう支援出来た。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 従来通りの指導方法、新人教育となってしまう改善する事が出来なかった。</li> <li>2 ゴーニング等の感染対策を事前に準備したことにより、クラスター発生時当日に対策をとることが出来た。また、試行錯誤しながら毎日のように業務改善を行い、ご利用者に対して最低限のサービス提供をする事が出来た。職員で無症状陽性者が確認された際も感染拡大なく落ち着くことが出来たため、今後も感染症・災害など不測の事態に備えて対応策を構築、見直しを行っていく。</li> <li>3 退職者1名を除き、9名が喀痰吸引研修の基本研修が終了した。実地研修についても開始しており、来年度中の修了を目指している。</li> </ol>

V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 感染症対策を行った上で、季節を感じることでできるレクリエーションや物づくりレクを様々な工夫により行うことが出来た。</li> <li>2 残業や勤務変更の発生、ヘルプ要請を行うことで、人員不足の中でもサービス提供を行うことが出来た。</li> <li>3 コロナ禍や人員不足もあり外部研修への参加が出来なかった。ご利用者に対して職員 1 人 1 人の対応に差があり、統一した対応は出来なかった。</li> </ol>
VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ご利用者の状態に合わせた食事環境の見直しや検討を各部門の意見を取り入れながら行うことが出来た。</li> <li>2 転倒・誤嚥が発生してからの対応となり、予防の為のカンファレンスを行うことが出来なかった。転倒・誤嚥による入退院も多く稼働率低下に直結してしまった。</li> </ol>
VII	<p><b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本入所・ショートステイ問わず転倒による事故が多く発生した。業務改善・見守り強化など事故の減少を目指す為の対応策を講じることにより、事故を予防していきたい。</li> <li>2 ご利用者 1 人 1 人に対し統一したケアを行うことが出来ず、職員によって対応方法の違いが目立った。可能な限りカンファレンスを行い、統一したケアを目指すとともに、様々なことをお互いに確認し合える環境作りの必要性を感じた。</li> <li>3 新人教育に於いて、能力依存による指導方法となっており勤務の制限が起きてしまった。すべての常勤が全ての勤務を行えるよう指導・教育方法を見直し、制限による弊害をなくす必要を感じている。今後取り組んでいきたい。</li> </ol>

令和3年度事業報告 部門名	報告者：氏名
ケアサービス課 一般虚弱棟	山田 康裕・宮沼 孝志
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コロナ禍により、感染症対策を行いながらの日々であったことと、人員調整・経費削減を同時に実施してきたため、「いのち」に寄り添うケアを意識した取り組みによる法人理念の具体化についての検討・実施に至ることが出来なかった。</li> <li>2 相談企画課・看護課と連携し、ご家族とのやり取りなどを充実させることにより、ご利用者が施設での生活の中で「自分らしく」生活できるよう支援することができた。しかし在宅との連携を含めて、支え合い・助け合う運営までには至らなかった。</li> <li>3 コロナ禍での日々の中で、感染症対策を意識し業務を実施することができた。</li> <li>4 自ら考え行動できる人材の育成を実践するにあたり、職員一人一人が均等に業務を実施できるよう、勤務調整や指導を実施し、人材の育成を行うことができた。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ケアの見直し・向上について、毎月のケアプラン時および、臨時カンファレンスを実施し日々変化していくご利用者に対してケア方法の検討・実施をおこなった。</li> <li>2 日々の標準予防策や消毒薬の携帯・食事介助時のフェイスシールド着用など、変化する新型コロナへの対策を実施。感染症対策を継続しつつ、緊急時における業務内容の変更を実施して介護業務を継続することができた。</li> <li>3 3階・4階の役職者間でのコミュニケーションを活発にすることにより、職員不足等、必要な人員を必要な場所に配置するなど、臨機応変に対応することができた。</li> <li>4 コロナ禍により様々な制限があったため。新たな研修方法構築はできなかったが、職員教育委員会主催研修をはじめ、喀痰吸引研修・認知症実践者研修・看取りについての研修等を実施し、職員の知識・技術の向上を図る事ができた。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 特養稼働率 94.29% 感染症・退所者数の増加の影響を多く受けた1年となった。</li> <li>2 喀痰吸引研修（基本研修）修了者 10名。</li> <li>3 利用者カンファレンスについては月1回以上実施をおこなった。しかし嚥下困難者への対応に特化し、主治医・訪問歯科医も参加してもカンファレンス開催には至らなかった。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 1日を通しての排泄簿を見直して業務軽減に取り組んだ。排泄介助を軽減した事により皮膚トラブルが増大した等は見られなかった為、適切な範囲内での改善となった。</li> <li>2 福祉機器展にて新たなリフトシート提案があり試行した。4階フロアとしては元来のリフトシートより使いやすいのと業務時間の短縮、ご利用者、職員の負担軽減になるので購入を希望していたが、ご利用者毎に購入する必要があり、金銭面での折り合いが付かなかった為、見送りとなった。</li> </ol>

V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 喀痰吸引研修（基本研修）を10名受講し全員終了。実地研修についても2名が終了し、残り8名も実地研修に取り組んでいる。</li> <li>2 感染予防の面ではコロナウイルスの蔓延により手洗い、マスクの着用が意識づけられていた。喀痰吸引研修の受講者は、緊急時の対応としてAED・心肺蘇生を学ぶことが出来たことで、夜勤リーダーを担う方々が全員学ぶことが出来た。</li> <li>3 個別音楽療法を行っていたご利用者の取り組み報告があり。記録を確認していたが、日々の接点との差が明確には感じられず、直接ケアの場面に活かす事が出来なかった。</li> <li>4 持ち上げない介護を施設が推奨している事を改めて主任から文面にして全職員に向けて発信した。それまで二人介助の指定だったにも関わらず1人で持ち上げる、リフトがあるにも関わらず人力で持ち上げる介護をしていたが、発信以降は適切なケアを行ってもらえている。</li> <li>5 感染症、災害等による緊急時の業務の構築については、感染症発生時におけるゾーニングの計画は立案できているが、それ以外の細かな業務内容についての計画は出来なかった。3階にてコロナウイルス発生・クラスター対応時の業務内容を参考とし助言も取り入れ、4階ご利用者の特性等も考慮した業務を計画すると共に、職員数等の状況に合わせた細かな調整ができる様な、業務計画の構築を図る必要がある。</li> </ol>
VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 昨年の途中まで就寝薬を夜勤者2名で配薬をしていたが、提供し忘れ等の事故が発生した為に1人で配薬をするよう業務の見直しを実施。服薬事故が軽減することが出来た。</li> <li>2 車椅子の横付け（3点柵+柵がない所に車椅子）を廃止。それと同時に3点柵が不要な方は撤去することにより環境整備に努めることが出来た。</li> <li>3 職員によるアルバイト制度を活用して出来る限り入浴介助を週2回で行った。また、欠勤者が出た時にも活用して業務の負担軽減を行った。</li> <li>4 ワーカー室、汚物室、パット倉庫等4階フロア全体の整理整頓を行った。</li> </ol>
VII	<p><b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 音楽療法の取り組みをご利用者のケアに活かすことが出来なかった。来年度は音楽療法士の活動について日程等の調整が難しく未定となっている。実施された際には日々のケアに活かせるようにしていきたい。</li> <li>2 主任主体での取り組みが多いと感じる1年だった。来年度は個々の職員が判断して業務改善や新たな提案等が出来る様に取り組む事が必要と感じた。</li> <li>3 来年度も必要最低限の職員数の維持と様々な面でのコストカットに取り組む必要がある。</li> </ol>

【 特別介護棟 3階 】 【 一般虚弱棟 4階 】

表1（平均要介護度）

	3階	4階
R3年度	4.11	3.73
R2年度	3.98	3.87

表2（ケアプラン家族参加率）

ケアプラン	合計	月平均
3階ケアプラン数	63	5.00
3階家族出席数	18	1.50
4階ケアプラン数	58	4.80
4階家族出席数	10	0.80

表3（臨時カンファレンス）

臨時カンファレンス	合計	月平均
3階	232	19
(内利用者カンファ)	34	2.8
4階	194	16
(内利用者カンファ)	39	3.3

表4（看取りに関する計画書）

看取りケア計画	合計	月平均
3階利用者	182	15
4階利用者	156	13

【 特別介護棟 3階 】

表5 (日常生活状況表) 3月31日現在 在籍者 : 52名 入院者数 : 0名 )

区 分	状 態		実 数
歩 行	自立歩行		9
	杖等歩行補助機使用	(介助歩行)	8
	車イス	(自操可)	5
	歩行不可		30
食 事	自分で可能		31
	一部介助		5
	全面介助		16
入 浴	一般浴		0
	中間浴		36
	特浴		16
排 泄 (昼)	トイレ	自分で可能	9
		介助	23
	Pトイレ	自分で可能	0
		介助	0
	オムツ		20
排 泄 (夜)	便所	自分で可能	5
		介助	4
	Pトイレ	自分で可能	3
		介助	5
	オムツ		35

【 一般虚弱棟 4階 】

表6 (日常生活状況表) 3月31日現在 在籍者 : 54名 入院者数 : 0名

区 分	状 態		実 数
歩 行	自立歩行		1
	杖等歩行補助機使用	(介助歩行)	2
	車イス	(自操可)	26
	歩行不可		25
食 事	自分で可能		39
	一部介助		2
	全面介助		13
入 浴	一般浴		0
	中間浴		33
	特浴		21
排 泄 (昼)	トイレ	自分で可能	5
		介助	27
	Pトイレ	自分で可能	0
		介助	0
	オムツ		22
排 泄 (夜)	トイレ	自分で可能	5
		介助	6
	Pトイレ	自分で可能	1
		介助	0
	オムツ		42

令和3年度事業報告 部門名	報告者：氏名
医務室	中村 牧子
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>施設看取り 25 名（3F 14 名・4F 11 名）、入院死亡 8 名、転院退所 4 名</li> <li>感染症の発症：① インフルエンザ：ご利用者 0 名、職員 0 名 ② ノロウイルス：発生なし。 ③ コロナウイルス：ご利用者 4 名、職員 6 名</li> </ol> <p>※ 昨年同様コロナ対策がインフルエンザ他の感染症予防にも効果があったと思われる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>夜間の救急搬送は 6 名であった。ドクターメイト導入による効果と思われる。</li> <li>オンコール対応は 167 件、そのうちの看取り対応は 3 件であった。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>チャプレンの協力により、週 1～2 回は申し送り時に理念についての話を聞く機会を持つことが出来、理念の共有に努めた。</li> <li>コロナ禍に対して厚生労働省、保健所、役所等からの情報収集を積極的に行ない、標準予防策を徹底したことで、感染症に対する成果が得られた。また、予防のみではなく、クラスター発生時にも最小限に封じ込めることができた。</li> <li>円滑な人間関係をもとに多職種連携を目指したが、個々の職員対応に大変苦慮し、実現できなかった。</li> <li>早出・遅出を廃止して日勤のみの体制に移行して業務の効率化を目指したが、効果については今後検証が必要。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 回/月のミーティングは開催出来なかったが、申し送り後に 10～15 分のミーティング（業務改善の検討、各委員会での報告、往診をふまえての情報共有等）を行い、統一した看護の提供を目指した。ミーティングの記録を残せていないのは課題である。</li> <li>夜間の救急搬送は 6 件/年となり、目標は達成できた。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>人員不足やコロナ禍の影響で業務が煩雑となったこともあり、看護業務の担当制は十分にはできなかった。しかし、ワーカーの協力により早出・遅出を無くして日勤のみの体制に移行することで、各業務時間の変更（排泄チェック、経管栄養、配薬等）を行うことができた。なお、早出を無くしたことによりご利用者の急変時の対応が遅れる可能性が懸念されたが、ドクターメイト導入により安心・安全に対応することができた。また、同じ時間内で勤務することにより手薄になる時間が無くなり、一貫した看護へとつなぐことができた。</li> <li>感染症持ち込み防止として各部署での標準予防策をはじめ、配薬・食事介助時のフェイスシールド装着の声掛け、徹底を他部署とも連携し行うことで、職員が無症状感染者となった際に他に感染を広げずに済むことができた。</li> <li>介護職員の「喀痰吸引等研修」は順調に行われ、19 名の「実地研修」を開始した。来年度の 12 月には終了予定だが、その結果をふまえて介護職との役割分担の見直しを実施したい。</li> <li>医務室内で各種委員会への関心を深めるため、その日に担当が不在でも必ず他の職員が出席するよう休憩時間を工夫した。また、委員会出席した内容を申し送りノートにて周知徹底を図った。</li> </ol>

V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ご利用者の状態変化に伴い、速やかに嘱託医に伝えてご家族への状態説明を積極的に進めることにより、今後の方向性を選択できる環境を構築できた。また、ご家族を含めた一貫したケアを行うことに繋げることができた。</li> <li>看取りケアの振り返りをケアプラン時に行い、各部署から意見を集めることで出来たこと、出来なかったことを確認し、ご家族の想いを受け止めた上で振り返ることが出来た。また、嘱託医による「施設における看取りケア」と題した施設内研修を開催し、その場で看取りに対する疑問、介護者の精神的安定等を学ぶ機会を得られたことは、次に繋げる意味でも大きな支えとなっている。</li> <li>コロナ禍により業務が煩雑を極めたため、ドクターメイトの医療相談はあまり活用できなかった。外来受診件数は383件と、昨年度比で48件の増加となった。</li> </ol>
VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>薬の変更、追加に対して嘱託医から事前に薬の内容をFAXして頂くことで、誤薬防止に努めた。</li> <li>コロナ禍による業務量増大により、医療依存度の高いご利用者を受けることが出来ず、医療対応促進助成の取得に至らなかった。</li> </ol>
VII	<p><b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コロナワクチンの3回接種やコロナ感染対応に忙殺された一年であった。そのため、業務が増大して職員の精神的な負担も増えてしまった。今後も業務の優先順位を考慮し、職員の不安などの表出が出来るような職場作りを今後も目指していきたい。</li> <li>クラスター発生時は対応に追われてご利用者、ワーカーに対する精神的ケアが出来なかった。今後の課題としたい。</li> <li>看取りを迎えたご利用者に対して、コロナ禍の中で多職種で検討し、早い段階で最期にご家族との関わりをもてるよう直接面会に繋げることができた。</li> <li>ロングショートご利用者の内服薬処方については、可能な限り当施設の嘱託医に主治医を移行することで、かかりつけ薬局との連携を図って業務削減につなげることが課題。</li> <li>今後もLIFEに基づく各加算への対応の見直しを行うことで、施設におけるケアの質向上につなげる。</li> <li>認知症通所介護との連携することで、急変時の対応や吸引、経管栄養等を必要時行った。今後も併設型認知デイのあり方を検討する。</li> <li>事故報告書における発生後3日間の経過記載やドクターメイトからの指示確認等の事務的業務は、誰もが隙間時間で行えるよう専用ボックスを設置したところ、提出が遅延することなく行えた。今後も継続したい。</li> </ol>

表1【医師の診察】

<往診>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	来所回数	4	3	5	4	4	4	4	4	4	4	4	5	49
	診察人数	70	50	101	70	91	81	64	79	76	61	56	90	889
精神科	来所回数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	診察人数	30	26	30	30	28	27	28	32	24	25	26	30	336
歯科	来所回数	3	3	4	4	3	2	4	3	4	3	4	4	41
	診察人数	23	30	23	29	22	20	29	28	40	29	32	35	340
皮膚科	来所回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	診察人数	16	17	18	14	13	13	15	17	14	18	20	16	191

<嘱託医へFAX(報告・相談)人数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
中希望が丘診療所	23	15	18	13	28	20	6	15	9	3	6	1	157
神奈川病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
浅井皮膚科クリニック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表2. 【外来受診・健康診断】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	7	4	6	8	13	7	16	9	6	5	4	7	92
眼科	3	1	1	2	1	2	2	1	3	3	6	3	28
皮膚科	1	1	6	4	8	2	2	2	5	3	5	3	42
整形外科	3	7	4	9	5	1	3	9	4	4	6	7	62
泌尿器科	3	1	4	4	2	2	5	3	2	2	4	5	37
外科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
救急外来	0	1	1	0	1	0	1	0	1	3	2	1	11
脳外科	0	0	1	0	1	1	1	1	5	3	1	2	16
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
形成外科	2	1	2	0	2	1	1	0	0	1	0	0	10
精神科	2	1	1	1	1	1	1	2	1	5	3	1	20
歯科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻科	8	3	3	3	2	2	3	1	5	2	0	2	34
内視鏡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
検査	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
輸血	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
健康診断	0	1	1	0	1	0	2	2	0	3	1	1	12
リハビリ	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3
リウマチ	1	1	0	2	1	1	2	0	2	1	0	2	13
合計	32	22	30	34	38	20	40	30	34	35	33	35	383

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急搬送本入	0	0	4	0	1	4	0	3	1	1	1	3	18
救急搬送ss	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	4

	7月8日	7月21日
健康診断	45	53

入院時病名	肺炎 (うち誤 嚥性肺 炎含)	胆のう炎 胆管炎 総胆管 結石	骨折	尿路 感染 尿管 結石	胃ろう 造設術	脳梗塞	心不全	硬膜下 血種 クモ膜下 出血	白内障 手術	痰の 増加	摂食 困難	腸炎 腸閉塞	形成
人数	13	3	7	10	0	0	1	0	2	0	0	0	0
入院時病名	低血糖	インフル エンザ	脱水	炎症 高値	検査	ショック 状態	吐血	薬調整	腫瘍	下肢血 栓	薬調整	コロナ感 染	CO2ナル コース
人数	0	0	2	1	3	0	0	0	0	1	0	2	1

表3. 【医療処置】月末時点(入院者含まず)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
胃ろう	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
ストマ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
在宅酸素	4	4	3	3	2	2	1	1	1	1	1	1
尿道留置カテーテル	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
常時吸引	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
褥瘡(Ⅱ度以上)	4	4	6	3	3	3	4	4	4	4	3	3
吸入	3	3	3	3	2	1	1	1	1	1	1	1
合計	21	21	23	20	18	17	17	17	17	17	16	16

(SS含まず)

表4.【歯科衛生士による口腔ケア】

口腔ケア	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
来所回数	3	4	4	4	3	1	4	4	4	3	4	3	41
実施人数	47	56	66	66	48	15	62	67	78	43	62	52	662

表5.【リハビリ】

〈PTによるリハビリ〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
来所回数	2	2	2	2	2	0	3	3	3	3	3	3	28
指導人数	12	11	10	8	10	0	15	18	15	17	16	15	147

〈機能訓練指導員によるリハビリ(口腔ケアを含む)〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施数	138	112	86	113	119	45	112	101	108	93	80	66	1173

表6.【予防接種】

肺炎球菌予防接種

	①ニューモバックス	②プレバナー
特別介護棟	4	0
一般虚弱棟	0	0
合計	4	0

コロナワクチン接種

	1回目	2回目	3回目
特別介護棟	45	41	40
一般虚弱棟	47	49	45
合計	92	90	85

インフルエンザ予防接種

特別介護棟	46
一般虚弱棟	47
合計	93

注:①市の助成あり ②助成なし自費

表7.【外部研修参加】

	日時	研修名	参加者	場所	主催
1	3月25日	医療的ケア教員講習会	名塚	レッヂフィールド中野坂上ビル6F	ユーススタイルラボラトリー株式会社

表8.【他部署への研修実施】

	日時	講師	研修内容	対象	場所	参加人数
1	12月4日から	林・中村	喀痰吸引・経管栄養の实地研修	基礎研修を終えた特養介護職員	特養居室	9名
2	3月30日から	中村	〃	上記職員と新たな特養介護職員	特養居室	19名

表9【夜間オンコール】18:30～翌朝7:30

月別のオンコール件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
16	9	12	12	20	19	13	7	12	12	17	18	167

症状別の件数・救急搬送数

SPO2 低下	呼吸	血圧	けい れん	麻痺	嘔吐	下痢	高熱	意識 レベル 低下	呼吸 停止 (看取り)	転倒	頭痛	出血	腹痛	胸痛	その他	救急 搬送
8	7	3	0	0	15	0	75	3	0	45	0	3	0	2	6	6

(1人に複数症状ある場合あり)

ドクターメイトへ日中の医療相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
皮膚	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

令和3年度事業報告 部門名	報告者：氏名
栄養課	小寺 秀偉
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 今年度は新しい試みとして毎月、手作りおやつを取り入れる事によって入居者に楽しみを与える予定でしたが、コロナの影響もあり思うような提供ができなかった。</li> <li>2 食事サービスでは、ご利用者が食事を楽しみながら安心して心身ともに健康に過ごせる支援が来た。</li> <li>3 お弁当を届ける際にご家族やケアマネージャーと連携し、情報を共有した上でご利用者の見守り及び安否確認を行った。また、独居のご利用者でも心身ともに安心して生活を送れる支援ができた。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 手作りおやつを年 12 回提供して行う予定でしたが、コロナの影響により 3 回にとどまった。来年度は定期的に提供する。</li> <li>2 朝礼に職員 1 名が毎回参加して、その内容を参加できなかった栄養課職員に伝達する事ができた。</li> <li>3 食事サービスの新規ご利用者や試食希望者、及び事業所職員や興味のある方に対して、食事サービスのパンフレットのみならず、法人のパンフレットを配布する等情報提供を行った。</li> <li>4 美味しさを追求し食材等を見直し検討を行ったが、昨今の世界状況から野菜や精肉等の単価高騰により食事の平均単価は上がっている状況。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域での配食弁当一日の平均値：114.6 食</li> <li>2 新規開拓による追加の配食弁当 1 日当たり：なし</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 厨房内に入る前の身だしなみチェック表に沿って確認した結果、手指、髪の毛、服装からの感染防止ができた。</li> <li>2 食事サービスでは、毎月メニューの見直しをスタッフ間で行い、改善を行うことができた。また受け取った時から、笑顔になっていただけるよう季節を重視した絵柄の帯や盛り付けに留意することで、ご利用者に喜んでいただけた。</li> </ol>
V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 災害時に備えてマニュアルカードに沿った行動と備蓄品の場所を栄養課職員が確認できたので、来年度は災害時を想定しての実際訓練を行う。</li> <li>2 配達員に対して、配達時での安否確認の重要性を教育することで、必要性を理解してご利用者と接する事ができ、異変があった場合にもご家族また関係者につながることができた。</li> </ol>
VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 新しい仕入れ業者契約して安価で質の良い生鮮食品を取り入れたり、新規メニューを取り入れる事によって、地域での配食弁当の食数増とコスト削減につながった。</li> <li>2 配食では小規模施設等への配食提供等を促したが新規開拓にはつながらなかった。しかし、地域の定期会食会について新規開拓ができ、継続している。</li> <li>3 法改正に伴う新たな加算取得は他部署と共に検討し、取り組む予定。</li> </ol>

Ⅶ 残された課題・評価・反省・その他の特記事項

- 1 コロナ禍での栄養課主催行事食は、感染リスクは高かったために、手作りおやつを提供が3回にとどまってしまった。来年度は感染対策を現場の協力をもとに実施して、定期的に提供したい。
- 2 食数は伸びているが、配食車両の故障等で修理代が増えていることが課題となる。
- 3 入居者へ献立についての嗜好調査を行い、入居者の意向を取り入れ、満足度を高める。

表1【栄養ケア・マネジメント】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
高リスク	9	12	9	10	13	9
中リスク	68	66	70	72	65	64
低リスク	29	27	26	21	26	26
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高リスク	10	10	9	8	9	7
中リスク	61	63	62	68	68	65
低リスク	28	27	31	24	27	30

表2【行事食実施記録】

● イベント食

敬老祝い膳 (9月20日)	赤飯、清汁、ぶりの照り焼き、天ぷら（海老、イカ、さつま芋、オクラ） 野菜炊き合わせ（里芋、人参、牛蒡、筍、絹さや）、秋の白和え、 寿饅頭
------------------	--

クリスマス ディナー (12月25日)	パン(クロワッサン、ホワイトブレッド)、オニオンスープ ビーフシチュー（牛肉、人参、じゃが芋、ブロッコリー）、海老と茄子のトマト グラタン、ポテトツリーサラダ、肉禁（サモナークリームソースかけ） 洋梨のケーキ、ぶどうのケーキ、ワイン（ノンアルコール）
---------------------------	--

正月祝い膳 (1月1日)	雑煮（鶏肉、ほうれん草、花形人参）、海老の姿煮、伊達巻、 栗きんとん、紅白なます、黒豆、紅白かまぼこ、数の子、鰯の照り焼き、 チキンロール、合鴨ロース焼き 煮物（里芋、京人参、筍、椎茸、絹さや）
-----------------	--

● 喫茶（月によってはミキサー食の方にも召し上がって頂けるように配慮したデザートを提供）

4月	ストロベリーケーキ、桃のケーキ	10月	ティラミス、サワーチェリーケーキ
5月	ティラミス、白桃ムースケーキ	11月	いちごショートケーキ
6月	ストロベリーケーキ	12月	オペラケーキ
7月		1月	オペラケーキ
8月	サワーチェリーケーキ	2月	チョコケーキ
9月	マロンケーキ	3月	ダブルベリーケーキ

◎飲物・・・コーヒー・紅茶のどちらか好きなものを選択

表3【食事サービス】

● 食事サービス実績表

	月別実績 食数	一日平均 食数	前年度比率
4月	2,332	106.0	104.8%
5月	2,280	108.6	107.8%
6月	2,400	109.1	112.9%
7月	2,340	106.4	104.9%
8月	2,375	108.0	103.2%
9月	2,455	111.6	112.0%
10月	2,482	118.2	114.0%
11月	2,635	119.8	116.5%
12月	2,598	118.1	111.0%
1月	2,445	122.3	115.3%
2月	2,478	123.9	113.2%
3月	2,849	123.9	111.9%
計	29,669	114.6	111.9%

令和3年度事業報告 部門名	報告者：氏名
認知症対応型通所介護（ひまわり）	穴道 美知子
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 理念を念頭に、ご利用者・ご家族に寄り添い、在宅・施設や職員同士がお互いに支え合いながら一体となったサービス提供を行うことができた。</li> <li>2 提供時間や送迎の対応について、地域のニーズに合わせ可能な範囲で柔軟に受け入れるサービスを実施できた。</li> <li>3 PDCA に基づいたサービスの評価と質の向上を行うことが出来なかった。日々、スタッフ間での情報共有は実施できているが、サービスの評価にまでは繋がらなかった。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ご利用者・ご家族が必要としているサービスを常に探求することができた。</li> <li>2 コロナ禍により、シャローム内外を問わず連携強化を行う事が難しかった。特に施設内でのコロナ発生もあり、部門を跨ぐミーティングは避ける傾向となってしまった。</li> <li>3 コロナ禍により地域に出ていくことが出来ず、地域において必要とされているサービス内容を理解・探求することができなかった。</li> <li>4 コロナ禍による利用控え等があり、稼働率は概ね毎月、目標数値を達成できてはいたが、大幅に上回ることもない1年となった。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 定員 12 名枠において、1 日平均 8.7 名、稼働率 72% となり、数値目標を達成することが出来た。新規利用者：5 名、終了者：5 名、平均介護度：要介護 3.4</li> <li>2 毎月の様子報告の書式を変更することにより、各ご利用者の短期目標の評価を 1 回/月実施できた。</li> <li>3 業務内容の見直しを実施。1 日のタイムスケジュールをお客様に合わせたものに適宜変更。また、新人教育についてのチェックリストの見直しも実施した。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ご利用者の ADL 評価の方法と、それに合ったケアの実施方法の見直しについては、月 1 ミーティング内容の見直しを行うことでお客様情報の共有の為に時間確保に努めた。このことは、スタッフ間のコミュニケーション不足の解消にもつながるため、継続していきたい。</li> <li>2 シャローム内の各部門と情報共有・連携強化を目的に適時意見交換会を行っていたが、コロナ発生により部門間の行き来を控える時期があった。</li> <li>3 運営推進会議等、感染症の流行により実施出来なかった事については、標準予防策を徹底する事により、実施できる方法を模索したが、実現には至らなかった。特に家族会に関しては希望される方が多いことが分かったため、今後につなげていきたい。</li> </ol>

V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 各ご利用者の ADL の理解により、個人に合った製作レクリエーションを実施。さらに別々の作品同士を組み合わせることで、別々の作業からも連帯感を得ることができた。</li> <li>2 送迎ドライバーのみでなく、浴室掃除等をハウスキーピングへ依頼することにより、見守り・送迎共に必要な人員の確保を行った。</li> <li>3 法人内の短期入所生活介護・居宅介護支援事業・認知症対応型通所介護を、地域の課題を抱えた方々に円滑に利用して頂ける様、法人内各部門と連携して情報共有の必要性は感じていたが、できていない。定期的なミーティングの再開を検討したい。</li> <li>4 定期的に業務内容の見直しを行うことで適正化を図り、職員同士がお互いのすべきこととして理解できたことで、業務の円滑化を図ることが出来た。</li> <li>5 感染症対策を日常業務の中で実施し、感染者の発生を予防できた。</li> </ol>
VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ご利用者に笑顔で過ごしていただける様、アクティビティの充実を目指し計画的に検討・実施した。今年度は保育園と ZOOM をつなぐことや動画配信を視聴することで保育園を身近なものに感じることができ、更には「園児の為に物を作る」という目的意識を持った製作レクリエーションを実施した。</li> <li>2 通所部門においてサービスの内容等共有できる様に、定期的な意見交換会を計画していたが、実施できなかった。実際には連絡を取り合うのみで、実現することができなかった為、継続していく。</li> <li>3 地域密着型サービスの特性を生かし、地域貢献への新たな取り組みを検討した。傾聴ボランティアなど、地域の方にお問い合わせできることはないか検討したが、実施まで繋がらなかった。</li> </ol>
VII	<p><b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 運営推進会議・家族会・ボランティアの受け入れなど、コロナの感染に留意したうえでの実施を模索する。</li> <li>2 新規利用者数の伸び悩み、営業不足。未だに夜間帯 DS の印象が強く残っており、問い合わせも続いているため、改善に向けた取り組みを模索したい。</li> <li>3 レクリエーションの充実とそのアピール、施設内外問わず、ひまわりの PR 不足。もっと PR の内容を検討した上で、方法を考えたい。</li> </ol>

令和3年度事業報告 部門名	報告者：氏名
ケアマネジメント シャローム横浜	飯田 竜一郎
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ご利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、可能な限りその居宅において有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようご利用者の立場に立った援助を法人一丸となり各機関と協力して行った。</li> <li>ご利用者の意思及び人格を尊重し、ご自身の選択に基づき適切な保健医療サービス及び福祉サービスが、多様な事業者から総合的かつ効率的に提供し、ご利用者の満足度を意識した支援を行った。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>地域との結びつきを重視し、市町村、地域包括支援センター、老人介護支援センター、他の指定居宅介護支援事業者、指定介護予防支援事業者、指定居宅サービス等事業者、介護保険施設、指定特定相談支援事業者とは密接な連携を図り、総合的なサービスの提供を行ったが、コロナ禍により住民による自発的な活動や地域における様々な取り組みが停滞した事で、地域との連携が希薄となった。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>居宅サービス計画書作成件数：毎月 35 件に対して約 20 件と達成率が 58%に留まり未達成。</li> <li>介護予防支援計画作成件数：毎月 6 件に対して約 10 件と達成率が 166%となり達成。</li> <li>認定調査受託件数：年間 20 件</li> <li>特定事業所集中減算：法令順守の観点より毎月 70%以下に抑えた。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>生活困窮、老老介護、介護者の精神障害など、ご利用者が在宅生活を送る上で支障となる要素が多々あり、ケアマネジャーだけでは解決できないケースも多い。地域包括支援センター、行政、医療機関との連携や地域ケア会議への参加等を通して多方面から意見を取り入れる機会を作り、困難な状況であっても可能な限り在宅生活を継続できるための支援の検討を行った。</li> <li>短期入所生活介護等、法人内サービスを効果的に使うことで部署間の意見交換が行え、連携強化に繋がった。</li> </ol>
V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ご利用者の近所の方や、その他の地域住民の方と情報を共有し、介護保険のみに頼らずご利用者が地域のなかで生活を継続できる状況を積極的に提案した。</li> <li>利用者本人や家族が不安感なくサービスが利用できるよう、どんな話にも耳を傾け、共に考えながら専門職としてフォーマル・インフォーマルを活用し支援を行った。</li> <li>法人内他部署と連携することで、多様な課題を抱えながら生活されているご家族や地域の方々に対し、認知症対応型通所介護、通所介護、短期入所生活介護、居宅介護支援、地域包括、施設等を円滑に利用いただけるよう、常に最新の情報を各部署と共有し利用者様に寄り添った支援を行った。</li> </ol>
VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>LSA 事業がシャローム横浜内に移転した事で、ひかりが丘住宅住民の課題把握を円滑に行え、見守り強化に繋がった。</li> </ol>

**VII 残された課題・評価・反省・その他の特記事項**

- 1 コロナ禍により、ご利用者は他者との関りが希薄となり介護サービスや地域活動への参加が不活発となった。そのことから ADL 低下が顕著に見られて急変や亡くなる方が多くなって支援時間が増大してしまい、顧客増に繋がらなかった。

令和3年度事業報告 部門名	報告者：氏名
事務局	小林 広幸
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <p>シャローム横浜事業計画基本方針の下、部門内はもちろん部門外及び法人内の事業所とコミュニケーションを図り、お互いに支え合い、助け合うことでチームワーク良く業務を遂行し、ご利用者・ご家族・職員等すべての「いのち」の【希望と平和】の為に取り組んだ。</p>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりが“事務局は施設の顔”であることを常に自覚し、窓口対応・電話対応を親切丁寧に行いシャロームのファンを増やすことに努めた。</li> <li>法人職員が“安心・安全”に業務を遂行出来る環境を整えたる為に、新型コロナウイルス感染症の対策として密閉・密集・密接の回避、消毒・掃除・換気を適切に実施した。さらに、感染症対応消耗品の発注・納品管理・助成金申請を適切に行うことで、欠品なく対応することが出来た。また、特養におけるクラスター発生には、職員の宿泊・食事・物品等の手配を行った。毎週の特養ご家族面会時の受付・誘導・見守り・記録対応に協力することが出来た。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>水道基本料金の値上げ等もあり、水道光熱費、定期購入備品の更なる価格の見直しを行い経費節減に努めた。</li> <li>各種助成金・補助金等、総額 500 万円獲得を目指した結果、290 万円獲得し達成率 58%。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>請求業務・経理業務・庶務業務・施設管理業務マニュアルを作成し業務分担の見直しを行うことで、人事異動に伴う業務の引継ぎも滞りなく行えた。</li> <li>毎月、法人ホームページにシャローム通信、さくらやま便り、献立表、特養 Twitter、音楽療法士ブログを更新し、利用者・家族・地域の方に必要な情報を素早く提供することができた。特に、新型コロナウイルス陽性者発生のお知らせ（特養・第1～3報）、（通所介護・第1報）を掲載し情報公開を行った。</li> </ol>
V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>職員ができるだけ多く朝礼に参加することで、法人理念を理解し、具現化に努めた。</li> <li>各部門の状況を常に把握し、緊急時にはサポート出来るよう常に業務の効率化を行った。</li> <li>オンラインを含む内部・外部研修に対して積極的に参加を促し、職員のスキルアップに繋げた。</li> <li>施設内の備品・事務用品等を常に管理し、無駄無く利用し、経費節減に努めた。</li> <li>感染症の特徴や標準予防策を全員が充分理解し、適切な予防対策や消毒清掃に努めた。</li> <li>施設内・施設外に常に気を配り、整理整頓・美化に努め、利用者・来客者に心地よい空間を提供した。</li> </ol>

VI	<b>業務の新たな試み</b> （昨年度より開始した事業・業務・対応など） <ol style="list-style-type: none"> <li>1 新しい生活様式に基づく行事・会議・研修等のあり方を模索し、提案・実行した。</li> <li>2 近隣の特養やシャロームグループの施設におけるクラスター発生時に、感染症対応の情報交換や感染症対応物品等を届けることで地域に貢献することが出来た。</li> <li>3 「シャローム通信」の構成を見直し、シャローム横浜の魅力をご家族・地域に情報を発信することで、ファンを増やすことに努めた。</li> <li>4 利用者・職員の安心あんぜんのために、日本財団PCR検査センターによる無料の検査管理システムの利用を9月20日より開始、9月30日からは職員150名の検体を集め提出した。さらに12月からは毎週検体の提出を行い、4月末の検査終了までに合計20回実施することができた。合わせて抗体検査キットも準備し、希望職員の検査にも対応した。</li> </ol>
VII	<b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 今後の法人で行われる新規事業等に対して、常に協力体制をとり実現に向けた取り組みを行う。</li> </ol>

1. 職員の入退職の状況

●法人内入職者明細

	令和2年度		令和3年度	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
特養3F	1	2	3	1
特養4F	1	2	3	0
医務	0	0	0	1
相談員	0	0	0	0
通所・認知	0	0	0	3
居宅	0	0	0	0
栄養課	1	4	0	4
事務局	0	0	0	1
LSA	0	0	0	0
キッズ	0	0	0	2
GM上	0	1	0	0
GM鶴	0	0	0	1
ケアハウス	0	0	0	1
ひ地域	0	0	0	0
ひ包括	1	0	1	0
ひ生活	0	0	0	0
ひ居宅	0	0	0	0
ひ通所	0	3	0	7
保育園	1	1	2	3
沖縄放課後デイⅠ	1	4	0	6
沖縄放課後デイⅡ	1	4	0	1
計	7	21	9	31

●法人内退職者明細

	令和2年度		令和3年度	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
特養3F	1	1	5	2
特養4F	2	4	2	2
医務	1	1	1	0
相談員	0	0	1	3
通所・認知	1	1	0	0
居宅	0	0	0	0
栄養課	0	5	0	4
事務局	0	1	1	1
LSA	0	0	1	1
キッズ	0	0	0	1
GM上	0	3	0	0
GM鶴	0	1	0	1
ケアハウス	0	0	2	1
ひ地域	0	1	0	0
ひ包括	1	0	1	0
ひ生活	0	0	0	0
ひ居宅	0	0	0	0
ひ通所	2	8	1	8
保育園	0	1	0	4
沖縄放課後デイⅠ	0	2	0	2
沖縄放課後デイⅡ	0	0	0	0
計	8	29	15	30



### 3. 職員の研修参加状況

#### 施設外研修

	令和2年度		令和3年度		増減	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	0	0	1	1	1	1
5月	1	1	2	2	1	1
6月	4	8	12	16	8	8
7月	3	3	9	9	6	6
8月	5	5	3	3	-2	-2
9月	18	22	4	4	-14	-18
10月	12	12	2	2	-10	-10
11月	18	18	7	8	-11	-10
12月	11	16	9	9	-2	-7
1月	6	6	8	8	2	2
2月	7	9	4	4	-3	-5
3月	9	12	3	3	-6	-9
合計	94	112	64	69	-30	-43

#### 施設内研修

	令和2年度		令和3年度		増減	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	3	79	1	52	-2	-27
5月	0	0	1	85	1	85
6月	2	18	2	19	0	1
7月	2	78	1	78	-1	0
8月	2	77	1	63	-1	-14
9月	1	62	1	74	0	12
10月	2	39	1	61	-1	22
11月	2	90	1	30	-1	-60
12月	2	12	1	76	-1	64
1月	1	62	1	18	0	-44
2月	3	328	1	82	-2	-246
3月	2	212	2	72	0	-140
合計	22	1,057	14	710	-8	-347

全体	116	1,169	78	779	-38	-390
----	-----	-------	----	-----	-----	------

### 4. 職員夜間送迎サービス利用実績一覧

	実施 日数	1番送迎	2番送迎	3番送迎			合計	平均利用 人数/日
		16:15~	17:20~	18:15~	19:14~	20:15~		
4月	30	33	82	22	57	10	204	6.8
5月	31	43	71	28	62	6	210	6.8
6月	30	41	68	16	56	10	191	6.4
7月	31	39	61	3	47	9	159	5.1
8月	31	33	60	5	43	10	151	4.9
9月	30	33	59	5	43	11	151	5.0
10月	31	41	72	10	62	14	199	6.4
11月	30	43	77	6	44	17	187	6.2
12月	31	38	69	2	40	23	172	5.5
1月	31	38	73	5	35	10	161	5.2
2月	28	40	59	8	43	16	166	5.9
3月	31	35	81	4	41	16	177	5.7
合計	365	457	832	114	573	152	2,128	5.8

令和3年度事業報告 部門名	報告者：氏名
横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業	溝口 成一
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市営ひかりが丘住宅において居住される高齢者の生活相談、見守り、安否確認を行った。</li> <li>・お茶飲みサロンはコロナ禍で開催できなかった。アウトリーチ活動は住宅がリフォーム中で新規入居者が皆無な為、行わなかった。問題の早期発見、早期解決を目指した。</li> <li>・相談者実数：259名 相談延べ件数：368名</li> <li>・相談内容の内訳 病気：73件、介護：40件、経済面：18件、家事：70件、子育て：0名、家族関係：11件 制度関係：103件、防犯・被害：10件、近所関係：33件、住環境：32名</li> <li>・相談への対応（重複あり） 傾聴：247件、情報提供：78件、書類提出支援：45件、助言：102件 その他（応急的家事支援など）：109件、包括や役所等への引継ぎ：49件</li> <li>・お茶飲みサロン開設回数：0回</li> <li>・見守り登録世帯数：137世帯（2022/03/31現在） 見守り登録者の性別 男性：42名、女性：104名 転入世帯訪問 0件、見守り電話回数：2,429回、見守り訪問回数：380回</li> </ul>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 相談援助：前年度を下回り、前年比72.8%となった。</li> <li>2 見守り事業：登録数はほぼ横ばいであった。見守り登録者の孤立死は0件</li> <li>3 お茶飲みサロン：コロナ禍のため開催ができなかった。</li> <li>4 アウトリーチ活動：新規入居者等がいなかったため、ロコミによる新規見守り登録を行った。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 相談対応後の結果（不満）件数の目標が0件のところ特に不満はなかった。</li> <li>2 見守り登録世帯の総数100世帯以上を維持できた。</li> <li>3 見守り登録世帯の孤立死件数0（ここでの“孤立死”の定義は「死後4日以上経過して発見された事例」とする）。</li> <li>4 お茶飲みサロンは開催できなかったため、数値目標は達成できず。</li> <li>5 新規入居世帯はなかったため、訪問は行わなかった。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 年度途中の7月、9月に長年勤めた2名の職員が退職したため、1名のスタッフで生活援助を行った。しかし、コロナ禍でお茶飲み会やお宅訪問を控えたため、どうにか対応することができたが、コロナ禍収束を踏まえ新規スタッフを増員したい。</li> <li>2 コロナ禍が収束したら、ひかりが丘ケアプラザの生活支援コーディネータ等とコラボレーションしたお茶飲み会の実施を行う。</li> </ol>
V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 高齢化が進み、元気に生活されている住民から介護保険サービスを利用したいという声比以前より多くなってきた。そのため、住民の生活状況を把握し、こちらから声掛けして介護認定を受けていただき、介護保険利用を推奨して今の住居で安心・安全な生活をいただけるよう努める。</li> </ol>

VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コロナ禍が長期化するという予測の元、感染防止も含め安全第一で業務を行った。</li> <li>2 休止していたお茶飲みサロンは横浜市の感染者が収束しなかったため、再開することができなかった。</li> <li>3 昨年度緊急事態宣言下で行った、見守り事業推奨電話やあんしんカード啓発ちらし配布等は、横浜市の感染者が収束しなかったため、行うことができなかった。</li> </ol>
VII	<p><b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 相談対応に関しては、距離が離れているため、できるだけ迅速な対応ができるように心がける</li> <li>2 近所関係の相談は解決が困難であるが、状況を把握し相談者に寄り添った対応ができるようにする。</li> </ol>

令和3年度事業報告 部門名	報告者：氏名
四季の森小学校放課後キッズクラブ	北村 幸恵
<b>I 事業概況・実績報告</b> （今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）	
1	就労等により、放課後に保護者がいない小学生が安心して安全に過ごすことができる居場所を提供した。
2	地域との結びつきを重視し、利用者の通学する小学校をはじめとした地域の団体や関係機関との密接な連携をしたクラブ活動を目指した。
3	利用者が日々のクラブでの活動や他の児童との交流により、基本的な生活習慣を習得することや健やかに育成されることを図った。
4	新型コロナウイルス感染症の予防対策を行う上で異年齢児間の遊びや交流の方法は制限されたが、児童の創造性・自主性・社会性を育むことを目指した。
5	法人理念「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕える」に基づき、キッズクラブを利用するすべての児童の安全と保護者の安心を確保した上で、活動内容の充実を図った。
<b>II 業務目標の達成に関する報告</b> （努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）	
1	キッズクラブを利用するすべての児童の安全を確保し、キッズルーム・遊具・おやつの衛生面なども含め対策し整えた。
<b>III 事業数値目標の達成に関する報告</b> （達成率・達成数値）	
1	昼間平日参加児童数（利用区分1） 1日平均 25人
2	夜間平日参加児童数（利用区分2A・2B） 1日平均 10人
<b>IV 業務の改善・見直し</b> （改善・見直しに取り組んだこと・その結果）	
1	高学年も楽しめるようなイベントやプログラムを検討し、参加児童数の増加につなげた。
2	新1年生も安心して過ごせるよう、改めて設備点検を行った。
<b>V 業務の強化・向上</b> （強化・向上したこと）	
1	季節や行事にちなんだイベント・プログラムや工作を行った。
2	縁日・スイカ割り・ミニ運動会・ドッジボール大会などを通じた異学年交流を行った。
3	キッズルーム内に読書スペースを設置した。
4	感染症の感染拡大防止策の徹底を行った。
<b>VI 業務の新たな試み</b> （昨年度より開始した事業・業務・対応など）	
1	体験型プログラムの実施（遠足・じゃんけん大会・親子でグラスサンドアート・ハロウィン工作・クリスマス工作・お楽しみビンゴ大会）
<b>VII 残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b>	
1	事務（会計）処理の負担が多く、事務所の整理整頓が行き届かなかった。

# 事業報告書

令和3（2021）年度



あったかいが  
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

シャローム 桜山

---

## 2021年度 シャローム桜山事業報告

施設長 村本 英邦

2021年は、コロナ禍における入居者の健康的な生活の維持と、経年に伴う設備管理に関する課題が顕著になった年度でした。

事業計画においては、①福祉の本質に根差した支援の在り方を目指す。②入居者の生活の質を向上させる取り組みを目指す。③安心と安全に対する取り組みの具体化を図る。の3つのテーマを掲げましたが、これに沿って取り組んだ中で見えた課題で、特に留意すべきと考える点は下記の6つです。これらは、今後しばらく続くと思われるコロナ禍において解決を急ぐべきものであると同時に、職員が入居者に関わる上でとても大切な点であると考えます。

2021年度の法人の課題でもあった「経営改善」については、入退去が大きく影響することから、これを適切に管理しました。結果、入居率98.3%（7か月間は100%）を達成することができました。収入の上限が入居人数の上限を大きく超えることがない制度条件にあっては、この入退去のコントロールはとても重要です。その意味で、入居者が健康的な生活を維持できるように個人のデータ管理を充実させ、「緊急時情報」も整理しました。併せて、生活相談員を中心に、ご家族とのコミュニケーションを可能な限り密に取ることによって、入居者、ご家族、シャローム桜山の関係をトライアングルで構築することができました。同時に、入居を希望する待機者には、「待機者リスト」の整理を行い、対象者への連絡を適切に行うことで入居の意思の有無と入居希望の時期を把握し、情報の整理を行いました。以上、2021年度の事業報告とします。

### 記

#### 【入居者の健康を維持するための課題】

1. 入居者の精神的な安定を確保するための関り
2. 入居者の身体機能の低下を防ぐための取り組み
3. 入居者間の関係性が適切に保たれるために必要なサポート

#### 【設備管理、環境整備に関する課題】

1. 入浴設備の経年に伴う保守管理
2. 施設、及び居室内の設備や備品の経年劣化を防止するための保守点検
3. 施設周りの景観保持と安全対策を含む自然環境整備への対応

以上

令和3年度事業報告 部門名	報告者：氏名
ケアハウス シャローム桜山	遠藤 裕之
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コロナ禍の強い制限の中、入居者と職員の良い関係性を構築することに努め、強い信頼関係を得ることで、大きな課題の一つであった「感染予防」を実現することが出来た。</li> <li>2 新型コロナウイルスの感染予防対策を以下の通り行った（感染者は0人）。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 国や行政の方針に則り、入館制限を行った。</li> <li>② 昨年度より実施して来た感染予防策を継続した。</li> </ol> </li> <li>3 上記の対応に加えて、状況に応じたレクリエーションの解禁を始めた。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 運営委員会において、入居者の精神的ケアのあり方を検討した。</li> <li>2 入居者の個々のニーズを把握し、特に身体的支援の必要な対象者を見落とすことがないように情報の共有をはかった。</li> <li>3 感染予防の観点からこれまで休会していた「入居者懇談会」をフロア別で開催し、そこで「避難訓練」、「防災訓練等の法定訓練」を実施した。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入居者の健康維持を目的とした「健康体操」を再開した。</li> <li>2 職員対象の外部研修が少しずつ再開され始めたこともあり、社協主催のオンライン研修に参加し、eラーニングなどの内部研修も行った。</li> <li>3 本年度は退去者6名、入居者6名であった。本年度は待機リストにある入居希望者への連絡をこまめに行い、入居率は98.3%であった。</li> <li>4 さくらやまニュースを中心としたホームページの更新を行った。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 感染症予防策の確認と見直しを毎月のスタッフミーティングの場で行った。</li> <li>2 入居者の情報管理を以下の通り整理した。</li> <li>3 業務マニュアルの見直しを適宜行った。</li> <li>4 設備管理を徹底した（把握と記録）。</li> </ol>
V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 緊急時用の「緊急時情報」の見直しについて入居者に啓蒙した。</li> <li>2 施設サービス計画書の作成・見直しを行い、個々の状況把握に努めた。</li> <li>3 行政や社協と連携し、オンラインによる避難者受け入れを想定した訓練を行った。</li> </ol>
VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 感染者の居室隔離を想定した業務のあり方を朝のミーティング等で行った。</li> <li>2 入居者の精神的ケアを目的としたこまめな声掛けに留意した。</li> <li>3 身体機能の低下の有無を確認すべく、職員間での情報共有に努めた。</li> <li>4 設備管理の観点から浴室設備関係の補修工事に着手した。</li> </ol>
VII	<p><b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 待機者リストの整理（継続）</li> <li>2 コロナ禍における入居者の精神的ケア（継続）</li> <li>3 施設の老朽化に伴う設備管理（継続）</li> </ol>

## 1. 現況の報告

### 1) 人数・年齢（令和4年3月31日現在）

区分	人数	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男性	11	90	68	84.3
女性	39	99	71	86.4
合計	50			85.3

### 2) 年齢階層別表（令和4年3月31日現在）

年齢／性別	男性	女性	計	比率(%)
～59才	0	0	0	0
60～64	0	0	0	0
65～69	1	0	1	2
70～74	1	1	2	4
75～79	0	3	3	6
80～84	4	10	14	28
85～89	4	11	15	30
90～94	1	11	12	24
95～99	0	3	3	6
100～	0	0	0	0
合計	11	39	50	100

### 3) 入居前住所別人数（令和4年3月31日現在）

区分	神奈川県			神奈川県外		合計
	市内旭区	市内旭区外*1	横浜市外*2	東京都*3	都外*4	
男性	0	5	3	3	0	11
女性	10	11	6	7	5	39
計	10	16	9	10	5	50

\*1 港南区1名・保土ヶ谷区5名・戸塚区2名・磯子区1名・青葉区1名・瀬谷区1名・南区2名・栄区1名  
緑区1名・都築区1名

\*2 鎌倉市4名・相模原市2名・大和市1名・横須賀市2名

\*3 台東区1名・大田区2名・小平市1名・江東区1名・多摩市2名・立川市2名・中野区1名

\*4 千葉県2名・茨城県1名・佐賀県1名・北海道1名

### 4) 入居・退去の状況（令和3年度）

区分	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居	男性	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	女性	1	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	5
入居者合計	1	0	0	1	0	0	0	2	0	1	1	0	6
退去	男性	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	女性	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	4
退去者合計	0	3	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	6

## 5) 入院者数（令和3年度）

区分	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男性	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	2	7
女性	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	2	0	7
計	1	1	0	0	0	1	2	1	0	3	3	2	14

## 6) 入居者のADL（令和4年3月31日現在）

区分	自立	一部 介助	内訳(一人につき複数項目の該当あり)									
			入浴	排泄	歩行	配膳	洗濯	掃除	通院	薬管理	その他	
男性	10	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0
女性	24	15	7	0	5	6	5	9	12	2	0	0
計	34	16	7	0	5	6	5	9	13	2	0	0

## 7) ホームヘルパー利用状況（令和4年3月31日現在）

	週1回 利用	週2回 利用	週3回 利用	週4回 利用	週5回 利用	週6回 利用	週7回 利用	合計
男性	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	7	6	0	0	0	0	0	13
計	7	6	0	0	0	0	0	13

## 8) デイサービス利用状況（令和4年3月31日現在）

区分	週1回利用	週2回利用	週3回利用	週4回利用	週5回利用	合計
男性	1	1	0	0	0	2
女性	2	2	0	0	0	4
計	3	3	0	0	0	6

## 9) 介護保険認定者一覧（令和4年3月31日現在）

区分	自立	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
男性	11	0	0	0	0	0	0	0	11
女性	25	3	5	4	3	0	0	0	39
計	35	3	5	4	3	0	0	0	50

## 10) 入居率（令和3年度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間平均 入居率
人数	50	50	48	48	48	48	48	50	50	50	50	50	
%	100	100	96	96	96	96	96	100	100	100	100	100	98.3

# 事業報告書

令和3（2021）年度



あったかいが  
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福社会

グループホーム シャロームミルトスの木

グループホーム シャロームミルトスの木鶴ヶ峰本町

---

## 令和3年度 グループホーム事業報告

施設長 渡部 紀久

新型コロナ感染症の蔓延から2年目となった。制限の多い中ではあったが、コロナ禍以前よりご利用者とゆったりした時間を過ごすことができた一年であったように思う。それでもコロナ禍において出来る事と出来ないことを見極めると、意外と多くの事が出来たように思う。感染症対策に十分留意しながら里山ガーデンやシャローム横浜の中庭を訪問させて頂いた。密になる家族会は難しかったが、出来る限り個別の面会は行って頂いた。

地域との絆も途絶えることはなかった。毎年、お正月に来て下さっていた上白根獅子舞保存会の皆さんが今年は12月にホームのすぐ近く、ご利用者が見える場所まで来て下さり、獅子舞を披露して下さいました。書道のボランティアさんは季節の節目毎にお手本を持ってきて下さいました。

但し、入退居管理に対して新型コロナの拡大は、様々な影響を及ぼした。これまで問題なく行っていたご利用者やご家族との面談調整が非常に困難になり、関連施設やご家族の感染者状況に、入居時期が大きく左右された。結果的に思うような稼働率や収支を実現する事が出来なかった。今後はコロナ禍の影響を織り込んだ上で入退居管理を計画する事と、本年度より導入された LIFE に関する見識を深め関連する加算の取得につなげたい。

ところで、私たちには高齢者福祉の一翼を担う者として、どのようなリスクに遭遇してもホームの運営を安定的に継続していかなければならないという責務がある。そこで、令和3年度の大きな目標の一つとして BCP（事業継続計画）の整備を掲げた。以前、東日本大震災やその後に続いた大雨被害を契機に、ホームでは防災意識を高め、対策マニュアルを整備した。今回も新型コロナを含め、感染症に対する危機意識を高め対策マニュアルを整備し、以前に比べ感染症対策のスキルはかなり向上したように思う。

地震や台風、新型コロナやインフルエンザ、私たちはこれまで様々な危機に直面して、その度に大変な苦勞をしながらも何とか乗り越え、ご利用者の生活を守ってきた。

次に遭遇するのはどんな危機なのか。

令和3年度の事業計画を総括するにあたり、私には一つの切実な願いがある。私たちが、次に遭遇する危機がご高齢の皆様がかつて筆舌に尽くし難い体験をし、そして辛苦を味わった「戦争」でないことを切に祈っている。

# 目 次

令和3年度  
アドベンチスト福祉会

グループホーム ミルトスの木 (上白根) 事業報告	
事業報告、現況報告 .....	3
行事報告 .....	5
職員研修 .....	6
グループホーム ミルトスの木 鶴ヶ峰本町 事業報告	
事業報告、現況報告 .....	7
行事報告 .....	9
職員研修 .....	10

令和3年度事業報告 部門名	報告者：氏名
シャローム ミルトスの木（上白根）	治部 実
I	<b>事業概況・実績報告</b> （今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） <ul style="list-style-type: none"> <li>1 各ご利用者の能力を活かして、自立した日常生活を維持できるように支援を行った。</li> <li>2 各ご利用者の安全を確保し、安心した生活を提供できるように努めた。</li> <li>3 ご家族の意向に沿った尊厳のある支援を行うように努めた。</li> </ul>
II	<b>業務目標の達成に関する報告</b> （努力したこと 達成できたこと・できなかったこと） <ul style="list-style-type: none"> <li>1 ご利用者が穏やかな生活を送ることができるように寄り添った支援を行うように努めた。</li> <li>2 防災・避難訓練を行ったことで有事の際の心構えが高まった。また事故が起きた際に見守りカメラで事故の検証を行い、事故の再発防止の努めた。</li> <li>3 コロナ渦の中で、回想法を本格的に導入するまでには至らなかった。</li> <li>4 適宜区分変更の申請を行うことで、介護負担に応じた収益を上げることができた。</li> </ul>
III	<b>事業数値目標の達成に関する報告</b> （達成率・達成数値） <ul style="list-style-type: none"> <li>1 夜間想定避難訓練を1回(消防署の立ち合いなし)、火災や地震を想定した避難訓練を1回、防災食の訓練を3回行った。</li> <li>2 外気浴・散歩などにより、18名全ての利用者を1日1回外気に触れるようにするのは難しく、ホーム内での体操等で筋力の維持に努めた。</li> <li>3 サービス提供体制強化加算（Ⅲ）と認知症専門ケア加算（Ⅰ）は達成した。</li> <li>4 入居率97.6%、目標としていた96%は達成する事ができた。</li> </ul>
IV	<b>業務の改善・見直し</b> （改善・見直しに取り組んだこと・その結果） <ul style="list-style-type: none"> <li>1 コロナ渦の中で年2回の家族会の中止や面会制限のため、ご家族と面談する機会が減ってしまった。</li> <li>2 朝食を湯せん調理にしたことで、夜勤者の負担軽減になった。</li> <li>3 見守りカメラを事故の検証に活かしたことで、骨折事故による入院は1件もなかった。</li> <li>4 ホームの開所以来続けていたホーム負担の新聞及び玄関マットを止めることで、経費の削減に努めた。（1ヶ月：約1万円）</li> </ul>
V	<b>業務の強化・向上</b> （強化・向上したこと） <ul style="list-style-type: none"> <li>1 今後も画一的なケアではなく、ご利用者に応じた個別的なケアを重視していきたい。</li> <li>2 各ユニットで記録の検証を行うことはできたが、それをホームとして統一したものにすることはできなかった。</li> <li>3 毎月のユニットミーティングなどでケアプランに基づいた根拠のあるケアができるように努めた。</li> <li>4 コロナ渦の中で上白根ケアプラザのお茶のみサロンへの参加や地域との交流を深めるのは困難であった。</li> </ul>
VI	<b>業務の新たな試み</b> （昨年度より開始した事業・業務・対応など） <ul style="list-style-type: none"> <li>1 回想法を本格的に導入することはできなかったため、NHK で作成した DVD を活用して回想法の要素を日々のケアの中で実践した。</li> <li>2 今後もコロナ渦の中での支援が予想されるので、運動不足にならぬように、ホーム内で行えるリハビリの機器を導入して、運動不足の解消及び筋力維持を図っていく。</li> <li>3 シャローム横浜より機能訓練指導員に来訪して頂きリハビリの指導を仰いだ。</li> </ul>

**Ⅶ 残された課題・評価・反省・その他の特記事項**

- 1 朝食を湯せん料理にしたことで、夜勤者の負担軽減になったので、今後は昼食や夕食にも導入を検討していきたい。
- 2 調理を湯せん料理にすることで、勤務体制の見直しを行い、人件費の削減及びホームの収益改善を図っていく。
- 3 見守りカメラを活用して、職員の言葉遣いなどご利用者に対する接遇向上にも活かしていきたい。

**1 各ユニットの入居者状況**

各階 9 名定員

合計 18 名

ユニット	性別	要介護度	年齢	ユニット	性別	要介護度	年齢
1 階	女性	3	93	2 階	女性	3	84
1 階	男性	1	87	2 階	女性	4	95
1 階	女性	3	96	2 階	女性	4	78
1 階	女性	4	95	2 階	男性	4	90
1 階	女性	1	87	2 階	女性	2	94
1 階	女性	2	87	2 階	女性	3	86
1 階	女性	1	82	2 階	女性	2	96
1 階	女性	1	86	2 階	女性	3	87
1 階	女性	1	96	2 階	女性	5	100

1 階 平均年齢 89.9 歳

平均要介護度 1.89

最高齢 96 歳

2 階 平均年齢 90.0 歳

平均要介護度 3.33

最高齢 100 歳

ホーム平均 89.9 歳

ホーム平均 2.61

**2 入院者数**

区分 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
計	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3

**3 入居・退居の状況**

区分 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	3
入居者合計		0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	3
退居	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	3
退去者合計		0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	3

#### 4 行事報告

月	行 事 内 容	月	行 事 内 容
4	お花見散歩 お誕生日会 里山ガーデン散策	10	お誕生日会 夜間想定避難訓練
5	シャローム横浜中庭の散策 お誕生日会	11	お誕生日会 防災の日に防災食を試食
6	寺家ふるさと村までドライブ	12	お誕生日会 上白根獅子舞保存会による獅子舞 クリスマスランチ 年越しそば
7	納涼会（かき氷やスイカ） お誕生日会	1	おせち料理 お誕生日会
8	お誕生日会	2	節分（豆まき） お誕生日会
9	敬老の日お祝い お誕生日会	3	お誕生日会 夜間想定避難訓練・消火訓練 お花見ドライブ シャローム横浜中庭散策

- ・ 毎月1回・・・書道クラブ
- ・ 毎月1回・・・腹話術ボランティア
- ・ 毎月2回・・・音楽療法
- ・ 毎月第1火曜日・・・紙芝居のボランティア
- ・ 毎月第2水曜日・・・ピアノ演奏ボランティア
- ・ 毎月第1木曜日・・・歌の会ボランティア
- ・ 毎月第3土曜日・・・お茶のみサロン（上白根ケアプラザ）
- ・ 1、4、7、12月・・・お茶会ボランティア
- ・ 年3回・・・ミコの会
- ・ 各誕生日・・・おやつにケーキでお祝い

\*但し、令和3年度は新型コロナの影響でボランティア様の受け入れをすることが出来ませんでした。

#### 5 運営推進会議

奇数月年6回開催 ※出席者：地域住民2名・ケアプラザ職員1名・入居者1名

・利用者家族1名・施設長・ホーム長・各ユニット長

\*令和3年度の運営推進会議は6回開催したが、うち5回は文書による開催であった。  
3月の運営推進会議のみ委員の皆さんに集まっていた対面委員会を開催した。

## 6 職員研修

研修名	研修日	参加人数
個人情報保護・法令順守（ホーム内）	4月22日	18名
新型コロナ感染症対応について（ホーム内）	5月20日	18名
言葉使いと身体拘束（ホーム内）	6月17日	18名
介護施設でのハードクレーム対処法(Webセミナー)	7月25日	1名
誤嚥と窒息について（ホーム内）	8月19日	18名
介護施設におけるBCP策定(Webセミナー)	9月3日	1名
夜間想定避難訓練	10月28日	15名
感染症対策指導者養成研修	11月25日	1名
高齢者施設における見取りについて（ホーム内）	12月17日	18名
高齢者施設における感染対策 ノロ・インフル・疥癬	1月20日	18名
介護保険報酬改定について（Webセミナー）	1月26日	1名
集団指導講習会（オンライン動画）	2月5日	2名
高齢者施設における防災について	2月18日	18名
転倒・転落の防止（ホーム内）	3月18日	18名

- ・全体ミーティング、ユニットミーティング開催 毎月1回
- ・ケアプラン見直し 半年毎

令和3年度事業報告 部門名	報告者：氏名
シャローム ミルトスの木鶴ヶ峰本町	浅岡 真美
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ご利用者の能力に応じ、自立した日常生活を維持できるように支援出来た。</li> <li>ご利用者の安全を確保し、安心した生活を提供出来た。</li> <li>尊厳ある支援を家族や訪問医との協力の中で行う事が出来た。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>避難訓練は目標としている回数を実施できた。防災食は食事形態に合わせたものを用意し、実際にご利用者に食べて頂き適正かどうかを検討した。</li> <li>ご利用者の体調変化に気付き必要な処置・訪問看護師・訪問医と連携をし適切な処置をする事が出来た。感染症が蔓延する事はなかった。</li> <li>ご利用者の生活習慣や考え方を尊重し、寄り添う支援を行う事が出来た</li> <li>今年度は内科の疾患・治療のために入院する利用者が多く、空室期間が長くなってしまった時期があった。適正な要介護度の申請を行う事が出来た。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>外気浴・散歩などにより、1日1回外気に触れて頂く事が達成できた。室内で行える体操を積極的に行い、筋力維持に努めた。</li> <li>サービス提供体制強化加算（Ⅲ）（3年以上継続勤務者を3割以上維持）は達成した。</li> <li>入居率95.3%であり、目標としていた96%には届かなかった。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コロナ渦でご家族の面会控えもあり、対面での話し合いの時間を設ける事が出来なかった。個別面談の実施が出来なかった。</li> <li>夜間のオンコール体制をシステム化する事は出来た。該当職員に対して夜間救急対応の研修は行う事が出来なかった。</li> <li>コロナ渦で、地域貢献としての介護相談会は実施する事が出来なかった。</li> </ol>
V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議はコロナウイルス感染防止のため、電話での情報交換を行い主に書面での伝達となった。</li> <li>コロナ感染防止のため、職員一人一人が感染源にならぬ様、健康維持に努めた。また濃厚接触者が出た際には、シフト変更・業務の効率化などを行い利用者への介護の質が低下しない様に務めた。</li> </ol>
VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コロナ渦での面会を実施するにあたり、テラス席での面会スペースを作り、密にならない面会を行う事ができた。 また、ご利用者と面会する迄の流れを明確化し、職員・ご家族がわかる様に掲示した。</li> <li>2.5人体制をシフトに組み込み、それに伴いタイムスケジュールの変更・業務内容の見直しを行った</li> </ol>

**Ⅶ 残された課題・評価・反省・その他の特記事項**

- 1 感染源にならぬ様にとの思いから、全体的にご家族の面会控えの傾向がある。コロナ禍での面会を継続させるため、密にならぬ様に季節に応じた面会スペースの確保など適宜考えていく。
- 2 ボランティアの受入れが出来ない状況が続いている。感染症防止対策を徹底し、受け入れ可能な状況を作っていく。
- 3 今年度はホーム内で普通救命講習会の研修を行う事が出来なかった。密にならぬ様準備をし、全職員が普通救命講習の修了を目指す。
- 4 見守りカメラを導入した。事故が起きた際の検証・職員の接遇に活かしていく。

**1 各ユニットの入居者状況**      各階9名定員      合計18名

ユニット	性別	要介護度	年齢	ユニット	性別	要介護度	年齢
1階	女性	3	81	2階	女性	3	86
1階	女性	5	92	2階	女性	2	82
1階	女性	4	94	2階	女性	4	88
1階	女性	4	92	2階	女性	1	79
1階	男性	4	90	2階	女性	1	102
1階	女性	5	87	2階	女性	3	96
1階	女性	2	87	2階	女性	1	86
1階	女性	4	87	2階	女性	2	86
1階	女性	3	89	2階	女性	2	86

1階    平均年齢 88.7歳    要介護度 3.77    最高齢 94歳  
 2階    平均年齢 88.5歳    要介護度 2.11    最高齢 102歳  
 ホーム平均 88.6歳    要介護度 2.94

**2 入院者数**

区分 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	1	0	1	3	1	2	0	2	0	0	0	10
計	0	1	0	1	3	1	2	0	2	0	0	0	10

**3 入居・退居の状況**

区分 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居	男性	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	女性	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	4
入居者合計		0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	1	5
退居	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	1	1	0	2	0	1	0	6
退居者合計		0	0	0	0	1	1	0	2	0	1	0	6

#### 4 行事報告

月	行 事 内 容	月	行 事 内 容
4	お花見ドライブ	10	防災避難訓練 担架・自家発電機・水消火器訓練
5	菖蒲湯 母の日のお祝い	11	シャローム横浜 中庭ランチ 自治会へ使用済み切手の寄付
6	アジサイ見学	12	上白根獅子舞保存会による獅子舞 クリスマスランチ 亀甲山教会のクリスマス会視聴 年越しそば
7	七夕かざり	1	元旦 おせち料理 初詣 書初め
8	ミルトス夏祭り・かき氷	2	節分（豆まき）
9	敬老の日のお祝い	3	雛祭りランチ 夜間想定避難訓練 お花見ドライブ

- ・ 毎月1回・・・書道クラブ
- ・ 毎月1回・・・紙芝居
- ・ 毎月2回・・・音楽療法
- ・ 毎月1回・・・腹話術
- ・ 毎月1回・・・歌の会
- ・ 毎月第2水曜・・・ピアノ演奏
- ・ 年2回・・・旭区混声合唱団
- ・ 毎月1回・・・旭区地区センター（紙芝居・読み聞かせ）
- ・ 不定期・・・包丁研ぎ
- ・ 各誕生日・・・おやつにケーキ、食事の際にお赤飯などでお祝い、写真入り色紙

\*但し、令和3年度は新型コロナの影響でボランティア様の受け入れをすることが出来ませんでした。

#### 5 運営推進会議

偶数月年6回開催 ※出席者：地域住民1～2名・ケアプラザ職員1名・入居者1名  
・利用者家族1名・施設長・ホーム長・各ユニット長

\*令和3年度の運営推進会議は6回開催したが、うち5回は文書による開催であった。  
3月の運営推進会議のみ委員の皆さんに集まっていたいただき対面で委員会を開催した。

## 6 職員研修

研修名	研修日	参加人数
個人情報保護・法令順守（ホーム内）	4月22日	18名
新型コロナ感染症対応について（ホーム内）	5月20日	18名
言葉使いと身体拘束（ホーム内）	6月17日	18名
介護支援専門員更新研修	令和3年3月から6月	1名
誤嚥と窒息について（ホーム内）	9月18日	1名
介護施設におけるBCP策定（Webセミナー）	9月3日	1名
夜間想定避難訓練	10月28日	15名
シャローム横浜に学ぶ看取り（ホーム内）	11月25日	18名
認知症についての理解（ホーム内）	12月23日	18名
高齢者施設における感染対策 ノロ・インフル・疥癬	1月20日	18名
介護保険報酬改定について（Webセミナー）	1月26日	1名
集団指導講習会（オンライン動画）	2月5日	2名
高齢者施設における防災について	2月17日	18名
転倒・転落の防止（ホーム内）	3月17日	18名

- ・全体ミーティング、ユニットミーティング開催 毎月1回
- ・ケアプラン見直し、カンファレンス 半年毎

# 事業報告書

令和3（2021）年度



あったかいが  
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ

## 【目次】

1	所長（基本方針）	2
2	地域包括支援センター	3
3	地域活動交流部門	5
4	生活支援体制整備事業	7
5	居宅介護支援事業	8
6	通所介護事業	10
7	通所介護給食部門	12

## 令和3年度 横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ事業報告

所長 滝沢 泰彦

横浜市ひかりが丘地域ケアプラザは「地域の身近な福祉拠点」として「地域づくり」「地域のつながりづくり」を行うとともに、地域及び行政と連携し、地域の中での孤立を防ぎ、支援が必要な人を把握し支援につなげていくことを目的として設置されています。

この目標を踏まえ策定した令和3年度の基本方針の成果についてご報告いたします。

- ①地域の身近な相談窓口として、日常業務や地域住民とのつながりを通じて把握したあらゆる相談や情報を受け止め、出来るかぎりの対応を行った。
- ②適切な支援策を地域ケアプラザとして考え、支援を行い、あるいは適切な機関につなぎ、受け止めた相談等の支援策を考える場に主体的かつ継続的に関わった。
- ③地域の魅力と課題を把握し、課題解決に向けた活動を主体的に行うとともに、地域の活動を見守り、支え合う仕組みづくりに取り組んだ。
- ④区役所、区社協及び他地域ケアプラザ等と連携し、個別支援で捉えた課題や地域の取り組みを区の施策につなげるよう取り組んだ。

昨年度に続き、今年度も新型コロナウイルスの影響を受け、ケアプラザの事業を自粛しなければならない場面が度々あった。特に通所では、感染者や濃厚接触者の利用、その疑いのある方の利用により、閉鎖に至る場面や人数を制限して営業せざるを得ない場面があった。そのため年間の収支が過去になく大きく落ち込んだ。

貸館についても、感染対策のため、人数制限や事業制限を行う場面もあり、年間の利用人数は、昨年度に続き低い水準となった。

全ての部門で、厳しい1年だったが、それぞれの部門が工夫して、コロナ禍で出来ることを考え、地域の身近な福祉拠点として業務にあたった1年であった。

令和3年度事業報告 部門名	計画責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 地域包括支援センター	川上 恵美子
I	<b>事業概況・実績報告</b> 高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を継続することができるよう、地域の高齢者の心身の健康維持、介護予防・権利擁護・保健・福祉・医療の向上、生活の安定のために必要な援助・支援を包括的に行った。
II	<b>業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと）</b> 下記業務を区福祉保健センターと密接な連携を図りつつ行った。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 包括的支援事業                第一号介護予防支援事業（居宅要支援被保険者に係るものを除く、基本チェックリスト該当者）基本チェックリストは該当者なし。独居者が多く手厚い支援を要する。                イ、総合相談支援業務 → URとの共催で出張相談会を開始（毎月継続予定）。                ウ、権利擁護業務 支援者向けの研修を区と共催で実施 1回、エンディングノート講座 4回、終活講座 1回、 防犯情報を民生委員懇談会で周知 8回                エ、包括的・継続的ケアマネジメント業務 → CM向け研修 3回                オ、在宅医療・介護連携の推進 → CM向け研修 3回、協力医との相談会 3回、                カ、生活支援サービスの体制整備（生活支援体制整備事業、地域活動交流部門と連携）                キ、認知症高齢者の総合的支援 アルツハイマー月間に啓発資料配布             </li> <li>2 介護予防支援業務（一般介護予防事業・（生活支援体制整備事業、地域活動交流部門と連携） → コロナ禍で開催が困難となることもあったが、生活・地域co.と連携しながら、ボランティア交流会の書面開催等工夫をして行った。</li> <li>3 第一号介護予防支援事業（居宅要支援被保険者に係るもの）年間実績1703件</li> </ol>
III	<b>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 相談には迅速・丁寧な対応を心がけ、必要時には訪問して相談を受けた。                より的確な支援をするために資質の向上を図った。… 相談件数、約月100件</li> <li>2 介護予防事業の開催及び認知症予防、ロコモ予防等の普及啓発 … 年間22回                （まん延防止のため2回休止）</li> <li>3 権利擁護の普及啓発研修 6回、認知症の勉強会 1回（認知症サポーター養成講座）</li> <li>4 地域ケア会議の開催 個別会議 年1回（身寄りのない独居高齢者）、包括レベル会議                まん延防止のため休止</li> </ol>
IV	<b>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</b> 複合課題を持つ世帯、個別事例から適切に地域課題を抽出するため、随時情報収集を実施したが、統計資料は作成できなかった。個別の相談事例だけでなく、関係機関や地域からの情報も集積し地域アセスメントに活用するよう努めた。収集する情報の精度を高めるために、横浜市の相談日報システムの統計機能を活用できるよう試行を開始した。
V	<b>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ケアプラザ内の地域活動交流部門、生活支援体制整備事業と連携しつつ、行政や地区社協、民生委員、自治会や介護保険施設、医療機関、障害福祉関係機関、商店、ボランティア等様々な方々とのネットワークについて、協働できる関係者を増やせるよう努めた。コロナ禍で施設連絡会（エリア内の入所施設との連絡会）は開催できなかったため、アンケートを依頼したり、関係が途切れないよう工夫した。</li> <li>2 精神科領域の相談に対し、精神科医個別相談会を軸に関係機関との連携も強化しつつ、支援体制の構築及び困難事例への対応力の向上を図った。</li> <li>3 手口がより巧妙化している振り込め詐欺や悪質商法等に対し、被害の縮小化をはかるべく、より一層の防止策の周知を迅速に行った。</li> </ol>

<b>VI</b>	<b>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</b> 1 8050問題等に対する対応方法の検討及び対応力の向上を図るため、専門職からの指導を受け研鑽に務めるべく研修を検討していたが、コロナ禍で開催を見送った。 2 介護予防を推進する人材育成の方向性について説明すべく区と連携しパートナー研修を開催する予定であったが、コロナ禍で実施できなかった。 3 介護保険制度改正に対応し、生活支援コーディネーターと自立支援に資する資源を検討して行く予定であったが、人事異動があり当初の計画とは変更せざるを得なかった。一緒に地域の関係者へ挨拶まわりをしたり、地区踏査を行い、地域のニーズの把握に努めた。
<b>VII</b>	<b>残された課題・評価・反省・その他特記事項</b> ・コロナ禍で対面での会合が開催できず、予定していた会合を中止せざるを得ないことが重なった。しかし書面で連絡をしたり、関係が途切れないように工夫して支援ネットワークを維持するよう努めた。人事異動による担当者の変更も、地域の方々に対し不利益とならないよう努めた。今年度は独居者の死亡後発見や自死が続き、コロナ禍で減少している相談と交流の場を、再度地域に作り出すための努力が必要と思われる。

令和3年度事業報告 部門名	計画責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 地域活動交流部門	川崎 数美
<b>I 事業概況・実績報告</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コロナ禍における新しい生活様式を踏まえた地域活動交流の形を、関係機関や他職種の方々と連携して考え、提供し、支援することに努めた。</li> <li>2 地域福祉保健計画（災害に備える・仲間作り・多世代交流・健康づくり・高齢者や障がい者、子どもの見守り・助け合いの仕組みをつくる）を推進するため、街づくり事業制度を利用して、防災アドバイザーによる地域防災を学ぶ場を提供した。</li> <li>3 情報収集と周知方法を整え、場の提供と交流を推進するように努めた。</li> <li>4 設備や建物の適正管理と経費削減に取り組むよう努めた。</li> </ol>	
<b>II 業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 関連機関や他職種と連携する為に会合や連絡会へ積極的に参加した。</li> <li>2 地域包括支援センターや生活支援体制整備事業等と連携して相談内容の分析を行い地域支援事業に繋げるため、包括看護師・生活支援COと定期的にミーティングを持った。</li> <li>3 地域のニーズに即した、自主事業が実施できるよう、自治会や他のケアプラザなどと情報を共有し、コロナ禍における安全な事業運営に努めた。</li> <li>4 コロナ禍でも利用者が安心して使用できるように、敷地内の衛生環境、建物や庭、設備等を整え、あたたかい窓口と、迅速な対応を行えるよう創意工夫するように努めた。</li> </ol>	
<b>III 事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コロナ禍のもと、主催事業は月10種、延べ20回以上開催する目標に対し、平均月8種、延べ12.4回に留まった。</li> <li>2 来館者数月1,000名以上（コロナ禍の状況を踏まえ算出。）の目標に対し、平均850名に留まった。</li> <li>3 固定経費の削減3万円/月（水道光熱費・通信費・コピー代など）を目指したが、達成できなかった。</li> </ol>	
<b>IV 業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域包括支援センターや生活支援体制整備事業等と連携して、見守りネットワークや居場所作りなどの需要に対して、提供が充分行き届くよう、創出方法を見直す。</li> <li>2 見落としや間違いを減らすために、記録の書き方や申し送り事項等の業務を見直す。</li> <li>3 広報の手段や内容（募集記事・部屋利用状況表・掲示板・ホームページ）の充実を図る。</li> <li>4 ネットワーク環境の整理や、水道光熱費、建物管理、警備などを見直す。</li> </ol>	
<b>V 業務の強化・向上（強化・向上したこと）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域ボランティア団体への支援や情報提供、各団体からの意見収集に努める。</li> <li>2 災害など有事の際の役割確認と、地域との防災協力体制の強化を行うため、勉強会を計画し、実施した。</li> <li>3 近隣の保育園・幼稚園・小中高等学校にアプローチし地域の方々、特に高齢者との交流の場を設定するよう努力した。保育園と高齢者を結ぶお手玉作りボランティアや、小学生と高齢者の体操プログラム、高校生へのボランティア紹介などを企画し、実行した。</li> <li>4 広報活動を通し、地域防災・防犯・トラブル防止につながる情報を発信に努めた。</li> <li>5 各種募集記事など、地域への情報発信の内容を充実させる。</li> <li>6 環境の向上に努めながら、経費削減を行うところ、ガス代の使用が増えてしまった。</li> </ol>	

<b>VI</b>	<p><b>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 新型コロナウイルス感染症対策を受け、新たな生活様式の普及・浸透のため、情報発信に努めた。</li> <li>2 防災意識を高めるため、AED講習を地域の住民向けに行うなど、住民主体の地域を作るべく需要を的確にとらえ支援していくところ、実施できなかった。</li> <li>3 地域の防犯上必要な事案が発生した場合、速やかに地域との情報共有を行うことが出来るシステムを作る取組により、地域福祉保健計画の推進に繋げるところ、取組めなかった。</li> <li>4 AYAMU の推進を図るため、生活支援体制整備事業と連携し、地域資源の有効活用及び効率が図れるようにシステムを積極的に活用するところ、できなかった。</li> </ol>
<b>VII</b>	<p><b>残された課題・評価・反省・その他特記事項</b></p> <p>コロナ禍でも工夫をしながら再開する事業も多く、まん延防止措置の中でも地域住民のケアプラプラザ利用のニーズの高さを感じた。またZOOMを使用することで、地域の小学生の福祉体験授業のお手伝いや、高齢者との体操プログラムの開催など、新たな関わり方の発見があった。これらの活動を広報紙に載せることで新たなプログラムの申し出もあり、地域全体で、多世代交流が求められていることが顕著になった。</p>

令和3年度事業報告 部門名	計画責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 生活支援体制整備事業	松村 宏一
I	<b>事業概況・実績報告</b> 団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けて、高齢者が自分らしく地域で暮らし続けるために、多様な主体による高齢者の生活支援・介護予防・社会参加の体制整備という視点を持って地域づくりに取り組んだ。
II	<b>業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと）</b> 1 高齢者が自分で出来ることは自分でいながら住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、様々な主体による重層的な生活支援がある地域づくりを目標に支援を行った。 2 高齢者が孤立することなく、生きがいや役割を持って自分らしく暮らし続けられる為の介護予防・社会参加の機会づくりとしては、主にケアプラザ自主事業による通いの場と交流の機会を用意したものの、コロナ禍もあって、それ以外の活動への展開は進まなかった。 3 住民、地縁組織、ボランティア団体、NPO、社会福祉法人、民間企業等の幅広い主体による多様で柔軟な活動の支援として、地域の高校生に対してボランティア参加の呼びかけを行い、今後の連携につながった。 4 専門職として、高齢者の個々の生活ニーズに焦点をあてた地域づくりに関する、分析・計画・立案の一環として、地域活動団体の現状把握に努め、「元気づくりガイド」の掲載情報を更新した。
III	<b>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</b> 1 ケアプラザ広報紙を通じて年間10件以上地域活動紹介等を行った。 2 認知症サポーター養成講座は規模を縮小した上で、1度開催することができた。 3 コロナ禍の為、シニアボランティア講習の開催は実現に至らなかった。 4 保健活動推進員・地域包括支援センター・地域活動交流部門と協働し介護予防を計画的に進め、介護予防教室を年間12回行った。
IV	<b>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</b> 1 感染症等で通常な支援が出来ない場面でも、高齢者が自分らしく地域で暮らし続けられる地域づくりに継続して取り組んでいる。
V	<b>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</b> 1 第4期地域福祉保健計画（きらっとあさひプラン上白根計画）について、旭区区政推進課によるコーディネーター派遣事業を事務局としてサポートし、委員会での議論と課題抽出の機会を用意した。 2 生活支援コーディネーター食事サービス連絡会に参画し、区域の食事会事情について聴き取りを行い、各団体のコロナ禍での活動状況を冊子にまとめ、団体間での情報共有の為の手段として配布した。 3 生活支援コーディネーター連絡会全体として取り組みが予定されていた、高齢者のニーズを冊子にまとめる計画は具体化には至らなかった。
VI	<b>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</b> 1 第4期地域福祉保健計画（きらっとあさひプラン上白根計画）の実現に向け、行政や住民、地縁組織、ボランティア団体、NPO、社会福祉法人、民間企業等との協働を模索するものの、コロナ禍による委員会の中止等もあり、取り組みは進まなかった。
VII	<b>残された課題・評価・反省・その他特記事項</b> コロナ禍で地域活動への制限が生じている中、つながりを途切れさせない為の支援を工夫する必要を痛感している。小さな活動やニーズにも目配りを行って、地域での支え合いが広がるよう、活動の担い手を探すことに引き続き努める。

令和3年度事業報告 部門名	計画責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 居宅介護支援事業	江口 直美
<b>I 事業概況・実績報告</b> 地域の方々が独居、老老介護など困難な状況であっても、住み慣れた自宅で暮らせるよう、安心と信頼を提供した。利用者の意思を尊重し、その有する能力に応じて、自立した日常生活を営むことが出来ることを目指し、支援を行った。	
<b>II 業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 互いに連携する           <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月実施される民生委員懇談会に出席し、情報共有を行った。</li> <li>・サービス事業所、地域包括支援センター、行政、医療機関等からの相談には積極的に対応し連携を深めた。</li> <li>・ケアプラザ協力医とケースカンファレンス会議を実施し連携を深めた。年間6回に対し、蔓延予防の観点から2回に減らし実施した。</li> <li>・予防介護支援事業と協力し予防支援居宅サービス計画書作成した。</li> <li>・旭区内からの認定調査の委託に対応し、地域の方々に資するよう務め、県外からの調査依頼にも対応した。</li> </ul> </li> <li>2 互いの資質を向上させ信頼に繋がる体制を作った           <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営基準に基づいたサービスを実施した。</li> <li>・月に一回事業所内事例検討会を実施、一つの事例に対し多方面からの意見を得られる場を作った。</li> <li>・事業所内で連携を図り、包括・地域・通所からの情報、助言を受けられることで、緊急の際も早急に対応出来る体制を維持していった。</li> <li>・「サービス内容に関するご利用者アンケート調査」、により、業務の振り返りと改善を実施した。</li> <li>・新規開設の施設、デイなどに関してコロナ禍の中、見学が行えず、開拓は困難であった。</li> </ul> </li> </ol>	
<b>III 事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 居宅サービス計画書作成件数：年間901件</li> <li>2 介護予防支援計画作成件数：年間185件</li> <li>3 認定調査受託件数：年間：21件（区外からの委託を含む）</li> <li>4 事例検討会の実施：年間：2回</li> </ol>	
<b>IV 業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 昨年度から引き続き、コロナ禍の中、感染予防を踏まえ、対面のモニタリングではなく電話や、その他の方法で利用者の把握を行っていた。よりいっそう、サービス事業所との連携が必要となった。情報共有を行い、連携を密にし、状況把握に取り組んだ。</li> </ol>	
<b>V 業務の強化・向上（強化・向上したこと）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 各サービス事業所や主治医と連携を取ることで、利用者の変化を早期に発見し、対応出来る体勢を維持・強化した。</li> <li>2 本人、家族共、不安を持たずサービスが利用できるよう話を聴き、共に考え、専門職としての支援を行った。</li> </ol>	
<b>VI 業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和3年度介護報酬改定から地域ケアシステムの推進の中に医療連携との情報連携強化がうたわれ、受診時の同席を行なった際、当該情報を踏まえてケアマネジメントを行うことが新たに評価されるようになったが、身元保証会社の活用により同行も依頼するケースが増え、実際には行うことはなかった。</li> </ol>	

**VII 残された課題・評価・反省・その他特記事項**

コロナ禍の中、外出の機会が減り、筋力低下や感染症に対する恐怖感から間違った情報に翻弄されてしまう方も少なくない。家族と会うことが出来ず楽しみがなくなり、気持ち的に落ち込んでしまう方も多い。少しずつでも日常を取り戻せるよう声掛けをしながら、気持ちを汲み取り不安が解消できる様、支援を継続していく。

令和3年度事業報告 部門名	計画責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 通所介護事業	長野 堅太郎
<b>I 事業概況・実績報告</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 デイサービスの支援が必要な利用者の意思及び人格を尊重し、生活意欲の維持・向上を目指し、利用者の立場に立ったサービスの提供を試みたが、感染防止対策等、コロナ禍の影響により活動内容に制限のある取り組みになった。</li> <li>2 地域福祉の担い手として責任感を持ち、多様な資源との『繋がり』を大切に『謙虚な気持ち』利用者及び家族への支援を実践した。</li> <li>3 職員同士が互いを思いやり、助け合い、協力して業務に取り組み風通しの良い職場環境づくりを目指したが、まだまだ目標達成に至ったとは言えない。今後も継続していく必要がある。</li> </ol>	
<b>II 業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと）</b> <p>利用者、家族が『ひかりが丘に来て良かった』と安心して心から楽しんで頂けるデイサービスを目指し、常に安全とサービスの質の向上を意識し日々の業務に取り組み、個々のニーズにあったサービスを提供した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 制度に即した運営：利用者それぞれの生活にあった、選べるサービス、又、個々に必要なケアプランに添ったサービスを提供し誰もが安心して生活が送れるよう関係法令を遵守し、計画的な事業を行った。</li> <li>2 サービスの質の向上：介護保険制度や高齢者の病気や薬、又、コロナ禍におけるレクリエーション等、介護職員の資質向上を目的とした研修への参加を調整したが、コロナ禍の影響により急遽お休みを取る職員が多く、安定した職員体制が確保できず、研修の機会を確保する事が出来なかった。</li> <li>3 情報発信：必要に応じ家族やケアマネジャーに文章や電話等で情報の提供を行った。特に身体的及び精神的に急を要すると判断した場合には、速やかに家族のみならず医療等、関係機関とも情報共有に努め、その際は必ず発信記録を怠らず、又、急変時の連絡体制も個別に明文化を行った。</li> <li>4 地域社会及び関係各所との連携：地域包括支援センターや関係機関と連携し、特に困難ケースは早めに対応し、ケース記録等を徹底した。</li> <li>5 個人情報の適切な管理：個人情報の有用性に配慮し、その権利と安全の保護に努めた。</li> </ol>	
<b>III 事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 一日平均延30人以上の利用者数の確保を目指したが、曜日ごとの利用者希望の偏りや、コロナ禍の影響による利用の自粛、時短営業の影響もあり、目標達成に至らなかった。年間平均稼働率74.4% 年間一日平均利用者数22.3人</li> <li>2 コロナ禍の影響により、研修等、介護サービス情報公表の調査項目の一部が実施出来なかった。</li> </ol>	
<b>IV 業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 職員間の連絡・連携を徹底できるように、職員同士でコミュニケーションを取り合う事を意識し、又、全ての職員に伝わるよう業務連絡ノートへの記録を徹底した。又、緊急の際はグループラインでの連絡方法を取り入れた。</li> <li>2 お互いにサポートし合える環境づくりを意識した。</li> <li>3 事務作業、業務内容の見直しをし、無駄を省き業務の効率化を図った。具体的には日々の業務日誌、相談員日誌、個人ケース記録の簡略化を行った。</li> </ol>	

V	<p><b>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護福祉士国家資格取得を目指した職員はいなかったが、認知症実践者研修を受けた職員が、数か月の研修と実習に取り組み、資格習得ができた。</li> <li>2 マニュアル等を見直し、常に改善必要個所において修正、再作成を行った。</li> <li>3 感染症対策を引き続き強化し、利用者、家族、職員が安心できる環境づくりに努めた。</li> </ol>
VI	<p><b>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</b></p> <p>コロナ禍でレクリエーションやイベントに制限がある中、利用者の生活意欲の向上に繋がるレクリエーションやイベントを、感染防止対策に留意し企画し、提供した。</p>
VII	<p><b>残された課題・評価・反省・その他特記事項</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症に係る臨時的取扱いの中に、業績の悪化を防ぐ為の措置があったが、それを利用するか、利用しないか検討が出来ず営業を継続してしまった。又、新型コロナウイルス感染症に関する理由で、急に一週間ほど休む職員が出てしまい、安定した職員体制が確保できず、職員に負担をかけてしまった。</p>

令和3年度事業報告 部門名	計画責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 通所介護給食部門	村井 仁
<b>I 事業概況・実績報告</b>	
1 利用者に食事が美味しいから毎日来たいと思ってもらえるよう、厨房スタッフ全員で料理について勉強し、メニューのバリエーション化、季節料理や食事イベントを考案し日々の業務に取り組んだ。ケアプラザで過ごす時間が楽しく安らげるよう、利用者の意見を参考に、料理を通してサービス向上に繋がるよう取り組んだ。	
<b>II 業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと）</b>	
1 食事メニュー・おやつの変種化を図り、利用者の満足度を上げるよう努めた。 2 生活相談員・介護職員・看護師等と利用者の情報を共有し、個々の身体状態や体調に合わせた安全で美味しい食事提供をするよう努めた。 3 スタッフ全員の調理技術・介護食知識の更なる向上を目指したが、スタッフ全員の意思疎通が出来てない部分もあったのでミーティングを行い改善した。 4 調理業務に必要な衛生管理、検査、体調管理等を厨房スタッフ全員で徹底することで食中毒や感染症の発生や拡大を防ぐよう日々業務に取り組んだ。	
<b>III 事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</b>	
1 利用者の誕生日に昼食・おやつのリクエストメニューを一品ずつ提供することを行った。 2 安全性・衛生面等を徹底しつつ、季節ものの料理を取り入れながら毎月セレクトメニューのイベント行事を実施した。	
<b>IV 業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</b>	
1 コロナ禍で、利用者の人数が日々変動しているなか、メニューの見直し・食材メニューリストを細かく記入し厨房スタッフ全員が意識を持って食材のロス無くすよう取り組んだ。 2 月一回のミーティングが行えない月もあるので、スタッフ全員で利用者の食事形態・体調や、調理に必要な技術・衛生面の知識について話し合いができるようシフト管理を見直しスタッフ全員の更なるスキル向上を出来るよう調整を行った。 3 給食日誌・利用者喫食状況報告書を見直すことで、利用者や職員の意見を参考においしい料理を提供できるよう取り組んだ。 4 厨房内の掃除、調理器具の掃除、食品庫の整理整頓を行い、厨房内の衛生面の徹底に努めた。	
<b>V 業務の強化・向上（強化・向上したこと）</b>	
1 利用者の帰宅送迎の見送り時に、食事の味付けなどの感想や献立のバランス・メニューのリクエストなど直接の声を聞き日々の業務に活かしたかったが、コロナの感染拡大などもあり利用者や接することがあまり出来なかった。 2 配膳時は食事量、塩分、糖分の調整、食欲のない方への配慮など利用者一人ひとりへの心配りをしながら、食札以外の嗜好なども考慮して食事の提供を行うことができた。 3 「給食会議」を行い、美味しく食べやすいメニューや調理方法について検討し、行事や季節食について、会議を通し介護職員からも積極的に意見を求めメニューの幅を広げられるよう努めた。 4 誕生日のリクエストメニューを継続しつつ、利用者一人一人のより細かい嗜好調査を記録することで料理のバリエーション化につなげることができた。	

<b>VI</b>	<b>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 コロナ禍でイベント行事などが出来ないなか、ケアプラザ職員みんなで安全性・衛生面等を徹底し、ご利用者に喜んで頂けるイベント案を考えケアプラザで楽しく過ごしてもらえるように取り組んだが、コロナの影響が大きく実施することがむずかしかった。</li> <li>2 市や地域などの研修・講習会等に参加しその情報を月一回のミーティングでスタッフ全員と共有しながら日々の業務に活かせるよう努めた。</li> </ul>
<b>VII</b>	<b>残された課題・評価・反省・その他特記事項</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 一日の仕事内容を見直し、スタッフ一人一人が効率よく仕事ができるようシステムを確立し、また現状に満足せず、スタッフ全員が高い意識を持って日々の業務に取り組んでいく。</li> <li>2 コロナ禍で利用者の人数変動が大きいなか、少しでも食材のロスがないよう通所スタッフと連携し利用者の人数を把握しながらメニューの作成・発注を行う。</li> </ul>

# 事業報告書

令和3（2021）年度



あったかいが  
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

シャローム三育保育園

---

## シャローム三育保育園 令和3年度事業報告

保育指針：「キリスト教の愛を基に

『知育』（考える力）

『徳育』（おもいやる心）

『体育』（けんこうな体）の調和ある発達を目的とした保育をおこないます」

保育目標：「気持ちを素直に表現し、意欲的に生活する子ども」

「思いやりの心を育て、感謝の気持ちを持てる子ども」

「健康な心と体を持ち、最後まで頑張る子ども」

令和3年度は“コロナ禍”も2年目となり、感染予防対策を行いながらの一年になりました。年度内3度に渡り園の関係者から感染が発生しましたが、行政と連携して早期再開の対応をすることができました。保護者とも行政や園の対策を共有し、感染症対策への協力を呼びかけ、事業の継続と子どもたちの成長や楽しい園生活の思い出になる経験を大切にする事を心掛けた保育園の運営を行いました。

リモートによる研修や会議が定着し、必要な情報や学びを得ることができました。また、園内研修の一環として各クラスで「子どもの主体性について」1年間取り組み、研究発表を行いました。保護者に対しては夏、秋、冬の3回に渡り、季節ごとに子どもたちの遊びや活動について「ほいくえん探検」を発行しました。

在籍者数は年間平均80.25名/84名で昨年度を上回る事が出来ました。

地域支援については、緊急事態宣言中を除き一時保育の受け入れを再開しましたが、利用は目標の1/4程度に留まりました。園庭開放などの保育園を活用した事業は再開できませんでしたが、見学の際に個別に育児相談などを行うことができました。

園長 村上 渉

## 目次

事業報告書	2
【1】現況報告	4
【2】給食	5
【3】医務	5
【4】防災管理	6
【5】職員研修	7

令和3年度事業報告 部門名	事業報告者：氏名
保育園 保育	小幡 悦子
I	<b>事業概況・実績報告</b> （今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 新型コロナウイルスの感染予防対策として、園舎の立ち入り規制や行事不参加等、保育でも人数制限など三密を避けた内容になったが、年間行事や活動については計画通り実施することができた。一時保育事業の大幅な利用減はあったが、新たに加算を取得する事で概ね予算通り推移することができた。
II	<b>業務目標の達成に関する報告</b> （努力したこと 達成できたこと・できなかったこと） 1 新型コロナウイルス感染予防対策により、子どもたちの姿を見てもらう機会が制限されている。その為、動画配信システムを利用し行事・日中の保育の様子を保護者の方にみてもらい、子どもの様子を共有できるように心掛けた。子どもたちが意欲的に最期まで頑張る姿や思いやりを持って友だちと関わる姿を、配信ではあったがみてもらい子どもの成長を喜び合うことが出来た。
III	<b>事業数値目標の達成に関する報告</b> （達成率・達成数値） 1 園児数の確保：入所児童枠 84 名に対し平均 80.25 名。達成率 95.54%。 2 一時保育事業：年間目標 300 名に対し 75 名。達成率 25%。
IV	<b>業務の改善・見直し</b> （改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 『対話』と共に、『語り合い』のある風土を大切にしたいと意図的ではあったが、職員間で語り合いの時間を持つようにした。語り合いの時間が、子どもを中心とした時間となりお互いの保育の共有につながった。 2 年間の園内研修テーマを『子どもの主体性について』とし、クラスごとに研究を行い年度末に発表した。それぞれが多くに気づき、園全体としても多くの学びを得ることが出来た。 3 個人の受講研修が保育に活かされているかを振り返れるように、書式を変更し数カ月後の振り返りが書き込めるようにした。本人の振り返りにはなったが、園全体としてのフィードバックとしてはもう少し考える必要があった。 4 各会議は事前に共有できる内容については、書面で確認できるようにした。会議中は手元を見るのではなくお互いの顔をみて『対話』が出来るように意識した。会議内容によってはもっと目的を明確にする必要があるものもあり、検討が必要と感じる。
V	<b>業務の強化・向上</b> （強化・向上したこと） 1 『子どもの主体性について』のテーマで行った研究が、子どもたちが主体的に、意欲的にいろんなものに挑んでいく状況を作ることに繋がった。 2 感染症委員会を中心に現状にあったマニュアルの見直し・周知・徹底を継続して行うことが出来た。
VI	<b>業務の新たな試み</b> （昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1 日常保育、行事等の様子を見たい。という保護者からの希望に対し 避けられない感染拡大予防対策を理解してもらいながら 動画配信を導入した。 2 コロナ禍の状況に合わせて子どもたちが主体的に計画した行事を実施することが出来た。 3 園外活動については公共の交通機関が利用できないため見直しを行った。特に卒園遠足については、園内でお昼から夜にかけてのプログラムに変更したことは大きな対応の変化であり、これによってとても充実したものになった。



【1】現況報告

① 入所児童

(令和3年3月31日付け)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	9/6	12/12	15/13	48/39			84/70
現員	9	12	15	16	16	14	82

② 一時保育事業延利用児童数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延利用児童数	8	3	2	4	12	10	1	1	0	2	5	27	75

③ 行事の状況

実施日	行事名	実施日	行事名
4月1日	入園式	11月2日	さつまいも堀り
5月21日	内科健診	11月25日	歯科健診
5月28日	お弁当持ち散歩	12月24日	クリスマス会（保護者の参加無）
6月4・ 11・18・ 25・7月 2・9日	懇談会（クラスごとに分散）	12月27日	もちつき
6月10日	じゃが芋掘り⇒収穫模擬体験	2月2日	節分祭
7月1日	歯科健診	2月24日	じゃが芋植え
7月16日	夏祭り（保護者の参加無）	3月5日	卒園パーティー
10月8日	運動会（保護者の参加無）	3月12日	入園説明会
10月15日	内科健診	3月7・9 日	お別れ会
10月29日	お弁当持ち散歩	3月17日	卒園式
11月4日～ 27日	個人面談	3月31日	進級式
11月12・ 19・26・12 月3・10・17 日	保育参観（クラス毎に開催）		
11月26日	一日散歩（5歳児）		

《地域交流と支援》

- ・ 幼保小交流：学校探検（DVD）、球根植え、年長児の自画像を区役所に展示
- ・ 療育センター巡回訪問：年2回
- ・ せやまる・ふれあい館合同避難訓練：3月10日
- ・ 合同育児講座：1月24日（おすすめレシピ、手作りおもちゃ提供）
- ・ 職業体験（高校生）：1名
- ・ キャリア教育（中学生職業インタビュー）：3名
- ・ 実習生：看護大学9名、保育専門生7名
- ・ グループホームミルトスの木上白根・鶴ヶ峰、認知症デイサービスひまわりとのZOOM交流

## 【2】給食

### ① 食育計画 【栄養講話】 対象：3～5歳児

実施日	内容	備考(媒体)
4月21日	三角食べについて	
5月12日	食事のマナー「正しい姿勢で食べよう」	クイズ形式 ポスター
5月26日	手洗いの大切さ	正しい手洗い方法を歌いながら学ぶ
6月2日	「歯を大切にしよう」虫歯ができる理由・歯を磨く大切さ	
6月16日	何からできてるかな(加工食品について)	竹輪→魚 チーズ→牛乳 ハム→肉 など
6月30日	噛むことの大切さ	
7月7日	夏野菜について	クイズ形式
9月1日	秋の食べ物について	クイズ形式
9月15日	箸の持ち方について	ポスター
10月6日	三角食べについて	
11月16日	さつまいもについて	収穫したさつまいもについて
11月24日	冬の味覚について	クイズ形式
12月1日	食事のマナー、正しい姿勢で食べよう	
12月15日	冬至について	クイズ形式 ポスター
1月7日	七草粥について	七草の展示
2月2日	節分について	
2月16日	手洗いの大切さ	正しい手洗い方法を歌いながら学ぶ
3月2日	春の食べ物について	
3月16日	いただきます・ごちそうさまについて	

## 【3】医務

### ① 健康診断

実施日	対象人数	実施人数	診断項目	異常の有無
(1回目)7月21日	80人	75人	内科	無
(2回目)10月15日	80人	75人	内科	無

実施人数と対象人数が異なるがその理由を確認し(病的、私的欠席)、経過を追った。

### ② 歯科健診

実施日	対象人数	実施人数
7月1日	80人	74人
11月25日	80人	78人

## 【4】防 災 管 理

### ① 消防設備点検

消防設備点検(実施・届出)	令和3年6月28日(1回目)実施
	令和3年12月24日(2回目)実施
防火対象物点検(実施・届出)	令和3年11月24日実施

### ② 防災対策備蓄

備蓄物	備蓄数量	備蓄物	備蓄数量	備蓄物	備蓄数量
ベンリーガーゼG	200枚入り 2袋	エマージェンシーシート	2枚	おむつビック	54枚×9
使い捨てグローブ (M、L)	各1000枚	包帯(M、L、LL)	約2本	おむつ超ビック兼用	14枚×1
消毒液(ケーパインA)	75m1× 3本	おむつS	84枚×1	おしりナップ	80枚入り ×20個
サージカルテープ (12mm×9m×24個) サージカルテープ (25mm×9m×12個)	各1箱	おむつM	64枚×2	鍋	1個
カットバン	100枚入り 8箱	おむつM	58枚×3	ガスコンロ	1台
Sコットン500g	2パック	おむつL	64枚×6	カセットガス	3本
ウェットティッシュ	2箱	水(20)	144本	ハロゲン灯器具	1台
哺乳瓶	9本	白がゆ・白飯	50・150	手動充電器	2台
哺乳瓶乳首	4個	ミルク	10缶	着火マン	2個
使い捨て手袋	100枚×3	クラッカー(70食)	4缶	懐中電灯・電池	2セット
ビニール袋(大小)	550枚	携帯トイレ	30回分	ラジオ	1台
紙ナプキン	150枚	ペーパータオル	200枚入り 30個	タオル	1箱
ジャグ	2台	トイレットペーパー	36巻	発電機	1台
ラップ	1本	ティッシュ	12箱	ガソリン	20L
コップ	350個	着替え上下120/140	30枚	皮手袋・軍手	12組・22組
箸・スプーン	60膳・30個	マスク(大小)	2300枚	工具類	一式
紙皿(大中小)	163枚	簡易トイレ	2台	スケッチブック	3冊
晒	10m 1反	けんちん汁(3kg)	6缶	ガムテープ	2巻
クリップ大小	8個	EMG・ブランケット	57枚	スズランテープ	2巻
おんぶ紐	8本	靴	17足	はさみ	2本
トランシーバー	2台	大人用熱さまシート	2枚入り 1袋	薬用手洗い石鹼 小容器	4L 1本 2個
清浄綿	20包入り 1箱	生理用ナプキン	2袋	嘔吐処理セット	3人分×2 セット

③ 避難及び消火訓練

(実施内容に○印)

実施内容 実施月日	想 定			訓 練	
	地震	火災	その他	避難	消火訓練
令和3年4月14日	○			○	○
令和3年5月12日		○		○	○
令和3年6月9日			○ (浸水)	○	○
令和3年6月28日			○ (不審者)	○	
令和3年7月14日		○		○	○
令和3年8月11日	○			○	○
令和3年9月8日			○ (台風)	○	○
令和3年10月6日		○		○	○
令和3年11月10日			○ (竜巻)	○	○
令和3年12月10日			○ (不審者)	○	
令和3年12月15日	○	○		○	○
令和4年1月12日		○		○	○
令和4年2月9日	○			○	○
令和4年3月10日 せやまるふれあい館 合同訓練	○	○		○	○

【5】職 員 研 修

① 園外研修

		実施記録 (上段：研修名・中段：主催・下段：研修日)	
個人の年間のねらい (希望研修)		①	②
		③	④
園長	人材の確保と育成。施設環境の整備。重大事故発生0	裁判例で学ぶ虐待事案における保護者・職員対応 マスコミ対応徹底解説セミナー	事例から考えるハードク レームへの対処法
		弁護士法人かなめ	シャローム横浜研修委員 会
		12/16	6/15
小幡 悦子	・子どもの主体性と共に職員 が主体的に業務につける環境 設定・コロナ禍での保育現場全 体のケア (子どもの主体性・保 育者間の同僚性)	保育の質向上に向けた 〈初めの一歩〉とは	
		ルクミー	
		5/18	
大原 仁子	・支払い遅れのある人への処 理をシステムにしっかり反映 させて 請求データと会計の一 致を確実にしていく・マスクで もウエルカム感が出せるよう	社会福祉法人会計基準対 応研修 (基礎編)	
		ウイリング横浜	
		9/2・9/3	

	声のトーン等に気をつけて保護者とコミュニケーションしていきたい(松本和也先生による社会福祉法人会計基準対応研修 基礎編、応用編・レスポンスィブ ウェブデザイン)		
岡田千歳	・感染症対策の徹底・園児に対する保健講習の充実・園内保健講習の充実(発達障がい・虐待・感染症・母子保健)	保護者支援・子育て支援 (キャリアアップ)	
		横浜市こども青少年局	
		6/14・6/22・6/25・ 7/2・7/9	
下村英里	・去年の様子ややり方に捉われず子どもたちの主体性、興味を伸ばせるように・保育する際の考え方を共有できるようわかりやすく伝える 相手の考え方をよく聞き 一緒に考えていく(主体性を大切にした保育・職員間の連携、チームワーク)	子どもを真ん中においた 語り合い	
		ルクミー	
		1/13	
鈴木香	様々な年齢のクラスに入らせてもらうので その年齢の子どもにあった接し方、保育を学んでいきたい(乳児・幼児の色々な研修)	保育現場における事故・ ケガ時の対応	
		横浜市私立保育園子ども園園長会	
		11/12	
金子武人	子どもたちに寄り添う保育をしっかりと行い 主体性の保育を実践できるように取り組んでいく。また園全体で考え対話し動けていけるように自分の役割をしっかりと果たせるようにしていきたい。(保健衛生・障がい児保育)	保育所における自己評価 ガイドライン	
		横浜市こども青少年局	
		12/1	
青木彩花	・乳児としての主体的保育の確立・主担任ではない立場からの保育士との連携、アプローチ・乳児副主任として 園全体の子どもの様子、気持ち又、他職員の思いに寄り添い業務をこなす(主体的保育関係・副主任業務で活用できそうなもの・自然や身体を使った遊び)	障害児保育(キャリアアップ)	
		ポピンズ	
		12/7~1/4(eランニング) 1/7	
		食育・アレルギー対応	

知久 ゆり	・主担任としての仕事をしつかりと学ぶ・保育者同士と連携した保育をする(1歳児や乳児保育について)	ポピンズ	
		2/4~2/25 (eランニング)	
		2/28	
嶋村 千恵子	・子どもたちの声や姿に目を向け寄り添い過ごす・「やってみよう」の環境設定を心掛ける(主体的な保育)	5区合同研修 接続期研修 瀬谷区こども家庭支援課 11/17	瀬谷区幼保小教育交流事業 ブロック研修 上瀬谷小学校 12/23
大平 望	・一人ひとりとの関わりを密に取り 発達に応じた保育をする・保護者とも信頼関係を築き一緒に子育てができるようにする(ケロボンズ系・障がい児系)	乳児保育(キャリアアップ)	保健衛生(キャリアアップ)
		横浜市こども青少年局	ポピンズ
		6/28・7/29・8/20・9/13・10/19	1/4~2/4 2/8
池部 桃子	子どもの主体性を尊重して、クラスを回すことができるようにする(遊び、製作・子どもの心理、発達・書類作成)	保育の本質は語り合いの中に	
		ルクミー	
		1/19	
川原 邦之	保育園の求めていることを踏まえた上で、主体的な保育を進めていく(ステップアップ研修・グループワーク、チームビルディング研修)	保護者支援・子育て支援(キャリアアップ)	
		横浜市こども青少年局	
		10/22~11/12 (eランニング) 11/17	
平井 菜緒	・子どものやりたいこと 行動、声、姿をよく見て極力実現して主体性保育につなげる・保護者とのコミュニケーションを大事にする・幼児職員で保育の振り返りをしたり会話をしながら主体性の理解を深める・新人職員の教育(遊び・主体的保育の実践につながることを全般)	障害児保育(キャリアアップ)	西部地域療育センターオープンデー
		白峰学園	横浜西部療育センター
		6/15・7/13・8/17・9/14・10/19	6/30
		マネジメント(キャリアアップ)	
		ポピンズ	
		2/1~2/22 (eランニング)・2/25	
松下 彩	『主体性』を大切にし、子どもたちが「今何をしたいのか」を大切に日々の保育をしていきたい(乳児保育について・手遊び等)	12月より産休の為受講無	
千田 妃奈乃	子どもの気持ちに寄り添い子どもたちが安心して楽しく過ごせる環境をつくる(3歳児)	乳幼児救急法研修	
		白峰学園	
		6/16~6/17	

	室内活動、遊び)		
杉本 育子	・個々の成長を理解し適切な配慮や援助を行う・子どもの気持ちに寄り添い信頼関係を築いていく(配慮児・乳児保育)	もっとワクワク 保育を楽しむ	
		ルクミー	
		12/6	
瀬谷 留美	・子どもの興味・関心に合わせた環境設定を大切にする・担任間で連携を大切にし 同じ目的を持った保育が出来るように努める(障がい児研修)	明日の保育を語り合う	
		ルクミー	
		12/10	
横森 房枝	・保育の基本を意識し 努力していく・働きやすい環境づくりに協力し 努めていく(特になし)	明日の保育を語り合う	
		ルクミー	
		1/11	
松本 美奈子	・先生方と連携をとり情報を共有し保育を円滑に進める・子ども主体の保育を意識する・保育中の声の大きさ、言葉づかいに気を付ける(今の保育)	子どもを真ん中においた語り合い	
		ルクミー	
		12/7	
宮本 博子	・今年度も感染症に気を付けながら保育に取り組んでいきたいと思う・子ども一人ひとり一日が楽しかったと思えるような保育が出来たらと思う・ふりーという立場で担任の先生がスムーズな保育ができるように努めていきたい(手作りおもちゃ)	子どもを真ん中においた語り合い	
		ルクミー	
		12/7	
佐藤 百合子	子どもの気持ち、話に耳を傾け落ち着いて次のステップへと進めるように導く(手遊び又はリズムあそびの実践的な研修)	保育をどうしよう 未来会議	
		ルクミー	
		1/13	
宮原 恵子	保育中、気になったことや失敗した場合は、自分の中で振り返りを行い今後の保育の中で出来そうなことを考える。(子どもの主体性・言葉掛け・安全管理・食育)	保育現場における事故・怪我等時の対応	
		横浜市私立保育園子ども園園長会	
		11/10	
加藤 京子	安心安全な保育(感染症に関する基礎)	子どもを真ん中においた語り合い	
		ルクミー	

		1/14	
富山 彩加	主体的な保育をする・職員同士で連携をとっていく・子どもの発達にあった保育をする・初心に戻って丁寧な保育をする(障がい児)	子どもを真ん中においた語り合い	
		ルクミー	
		1/12	
勝谷 広志	厨房の職員が積極的に食育に参加できる環境づくり。誤食0。他部署とのつながり強化(衛生・調理・食育)		
熊倉 和可子	・食育をしっかり行っていき たい・栄養業務(食育・離乳食)	食物アレルギー講習会	
		横浜市こども青少年局	
		12/28	
松原 亜里沙	・調理の幅を広げる・食育について理解を深める(調理実習・食育・アレルギー)	10月退職の為受講無	
一条彩 香	調理の事も覚えていきたい(食育)	食物アレルギー講習会	
		横浜市こども青少年局	
		12/28	
大場 真理子	全体の流れを把握して手際よく動けるようにする(衛生管理等)	4月退職の為受講無	
中野 友絵	仕事に慣れ 子ども一人ひとりの個性を学ぶ。子どもの気持ちを考える	保育現場における事故・怪我等時の対応	
		横浜市私立保育園子ども園園長会	
		1/17	

② 園内研修

園内研修 年間のねらい『私たちが目指す主体性』

実施年月日	内容(担当職員)
4月23日	救命救急・緊急時の対応、けがの手当て/除去食・エピペン(講習・マニュアル確認):看護師・栄養士
5月28日	『主体性』全体講習『子ども主体の保育の現在地(前半)1年間を通しての取り組みを発表:主任
6月25日	①『主体性』全体講習『子ども主体の保育の現在地(後半):主任②『主体性』グループディスカッション(発表に向け):主任③『ハードクレームへの対処法』:園長
7月	ほいくえん探検冊子作成の上保護者配布(夏号):園長
7月8月	①課題『睡眠』レポート提出からグループディスカッションを行い保護者への手紙配布まで行う:主任・副主任
8月	『主体性』グループディスカッション(発表に向け):主任

9月3.6.7日	防災（担架の使い方）：防災
9月24日	自己評価（前期）：主任
10月	ほいくえん探検冊子作成の上保護者配布（秋号）：園長
10月28日	①『マナーとは』：園長②『人権擁護』：園長③防災（不審者訓練）：防災係
11月26日	『主体性』グループディスカッション（発表に向け）：主任
11月～1月	嘔吐処理DVDの視聴：看護師
12月17日	『主体性』グループディスカッション（発表に向け）：主任
1月28日	『主体性』グループディスカッション（発表に向け）：主任
1月	ヒヤリハットフィードバック：主任・副主任
1月	嘔吐多発の為の検証：主任・看護師
1月26～28日	救命講習『心肺蘇生』：看護師
2月	ほいくえん探検冊子作成の上保護者配布（冬号）：園長
2月25日	『主体性』グループディスカッション：発表：主任
3月	自己評価（後期）：園長・主任
3月13日	①法人理念・保育園の役割・概要・事業計画・個人情報保護・苦情、要望解決・人権擁護：園長②研究発表の講評：園長③マニュアル確認：主任④SDGs：副主任⑤防災：防災係⑥年間計画の立案『全体的な計画をもとに』：主任
3月25日	新年度に向け準備・話し合いによる環境整備：主任
11月～3月	語り合い：主任

# 事業報告書

令和3（2021）年度



あったかいが  
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

沖 縄 事 業

ベーテルの夢

ベーテルの夢Ⅱ

---

## 2021年度 放課後等デイサービス ベーターの夢、ベーターの夢Ⅱ事業報告

理事長 村本英邦

2021年度は、法人評議員会より課せられた経営改善を果たすことが出来ました。事業所単位の課題はありますが、経営が改善されたことによって、今後の沖縄事業の在り方や取り組みについても可能性を見ることが許されたような思いになりました。先ずはこのことを報告し、以下、事業活動から見えた2021年度の概要を報告致します。

2021年度も、前年度同様、コロナ禍の強い影響を受けた1年となりました。具体的には、全国的にも子どもの感染が顕著にみられるようになった年明けから、第6派が小学校を中心に蔓延し、ベーターの夢においては利用児童が濃厚接触者となったこと、ご家族に感染者が出て濃厚接触者になったこと等が理由となって事業所を閉鎖せざるを得なくなりました。これによって収入の面で大きなマイナスを出すことになりました。

一方では、そのような地域の状況においてもほとんど影響を受けなかったベーターの夢Ⅱでは、順調に稼働率を伸ばし、7月以降3月まで常時100%を超える稼働実績を残し、予想以上の実績を得ることが出来ました。

法人本部より遠く離れた地域での事業運営においては、特に法人理念の共有と継承に留意しました。コロナ禍で、個々の職員と法人の精神的交流が思うように持てませんでしたので、法人理念とその根拠である聖書の思想を学び共有するために、数少ない沖縄訪問のチャンスを活かして法人チャプレンによる「祈祷週」を実施しました。このことは、現場の職員の精神的な支援にも繋がり、法人への帰属意識を刺激し、事業の意味と自らの役割について考える機会になったと信じます。

沖縄県における障害事業は、個人や地域のニーズに応える目的を越えて法人が存在する意義を問うものと理解しております。その意味で、過酷な環境の中にあっても、2021年度の事業報告が祝福された内容となったことを嬉しく思います。この実績を来年度以降も継続できるように、良かった点を更に深め、課題となった点をしっかりと分析して改善し、個人や地域のニーズに応える事業所としてサービスを考え、提供して参ります。

令和3年度事業報告 部門名	報告者：氏名
ベーターの夢	福地 十七重
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 利用児人数（登録者数:17名、月平均実績数:9名/日、年間延べ実績数:2200名）</li> <li>2 利用児平均稼働率 88%（前年度比 92%）</li> <li>3 法人理念の「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕える」を基に、不安や貧困における孤立した母子支援や精神的援助を心がけた。また、コロナ禍における保護者のレスパイトやご利用者のエンパワメントを重視した福祉サービスの提供や地域の障がい者の拠り所として、「ベーターの夢」の開放に努めた。今後も継続してキリスト教精神に基づき祈り、希望と平和に向けて地域に根付いた福祉サービスの提供を継続していく。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 定員 10名/日以上的人数超過日を調整し減算にならないようにした為、収益率を上げることは未達成であった。コロナの陽性者及び濃厚接触者発生に伴い、事業所閉所や自粛（計7回）を余儀なくされて稼働率に影響を受けた。しかし、特例措置で代替支援サービスのシステムを構築し提供することで安定した収益に繋げる努力をした。</li> <li>2 個々の希望や要求をできる限り提供することで、喜びと安心を得て長期間の不登校から学校へ通えるようになった。（3例）</li> <li>3 徹底した寄り添い支援から自己肯定感を育み、日々の活動プログラムの選択に関する意思決定支援を重視し、コミュニケーション能力や非認知能力を高めた。</li> <li>4 事業所内のみならず、保育所等訪問支援において、学校などの訪問先の環境調整をすることでいじめによる不登校から安心して通える環境づくりを図った。（1例）</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 利用児の確保： 1日平均利用人数（9名/10名定員）9名で利用児維持達成。</li> <li>2 保育所等訪問支援：希望者や新規契約は大きく目標達成。コロナ禍におけるサービス提供により学校への訪問が困難であり月利用累計の目標達成には至らなかった。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 感染症予防策を強化し、手指消毒や施設消毒等を習慣づけるよう心掛けた。保護者向けに新型コロナウイルス感染症予防情報を定期的に発信することで家庭とも連携を図った。よって保護者の理解・協力を得て、積極的な自粛を促すことができ、事業所関係者（利用者等）のコロナ陽性者・濃厚接触者の度重なる発生時においてもクラスターには至らなかった。</li> <li>2 朝礼やチャプレンによる祈祷週により、聖書の学びを通し法人理念の理解とキリスト教福祉の精神を学んだ。その他、神経発達症に関する研修や勉強会を通して専門的知識を学び支援において実践することができた。</li> <li>3 定期の緊急時対応（避難訓練等）に加え、新型コロナウイルス感染症に関するフローチャートを作成するなど有事の感染拡大予防策の見直しを行った。よって緊急時対応をスムーズに行うことができた。</li> <li>4 請求ソフトの導入を試みたが、当事業所（保育所等訪問支援）の提供サービスに対応しておらず、ICTの活用には至らなかった。連絡帳のフォーマットを簡素化することで指導員と保護者の負担を減らした。</li> <li>5 人員配置などを鑑み、営業時間や加算配置を変更することで調整し加算の増益を図った。</li> </ol>

V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>行政公認の専門的支援者向け活動「すなばの会」や「障がいのある子どもの放課後保障連絡会沖縄」の事務局を務め、情報の収集や専門的学びができた。保育所等訪問支援等における学校や医療との連携に努め積極的関係構築が出来た。</li> <li>コロナ禍で面談の制限がある中、希望者との個別相談を電話やメール、オンライン会議を積極的に行い情報共有した。感染状況を見計らい、ベテール Café を開催して保護者同士の繋がりや居場所の確保を図った。</li> <li>要保護児童（要支援児童）に関しては丁寧な見守りと保護者支援を密に行い、適切なネットワークに基づき連携し、要支援児童の家庭環境の安定を図ることで現状改善に向かうことが出来た。また、見守り支援の一時終結をすることができた。虐待の早期発見に努め重大事件を未然に防ぐ努力をした。</li> </ol>
VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>月に一度のクリーンディや年度末の地域施設や施設周辺の清掃作業に取り組んだ。</li> <li>クッキングが制限され開催できない（感染予防対策の為）ことでおやつ会は殆ど取り組めなかった。</li> </ol>
VII	<p><b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>利用児の心身の成長に伴い、支援室の圧迫感や騒音が気になり、入室を渋る児童がいる。個別にて戸外活動や3階の事務室での分散支援を行っているが、その分の職員の配置が必要となる為、十分な支援の提供が出来ていない。神経発達症の特性を鑑み場所の確保と環境を整えることが必要である。</li> <li>BCP策定と虐待防止の更なる推進に向けての組織づくり。</li> </ol>

**【事業実績報告】 3月末現在**

- ①利用定員 10名（児童発達支援・放課後等デイサービス/日）  
 ②利用契約者数 17名（放課後等デイサービス）・ 10名（保育所等訪問支援）  
 ③利用卒業（退所） 3名（理由：目標達成、支援終了、引っ越し）  
 ④待機登録者数 21名（保育所等訪問支援含む）  
 ⑤職員人数（嘱託・パート・アルバイト含む） 計 10名  
     管理者 兼 児童発達支援管理責任者：1名      児童指導員：2名      作業療法士：1名  
     保育士：1名      指導員：2名      ドライバー：1名      アルバイト：2名

2 利用児実績人数（名） ◎代替支援等サービスを含む

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	平均
202	158	150	168	208	214	179	182	166	178	175	220	2200	183

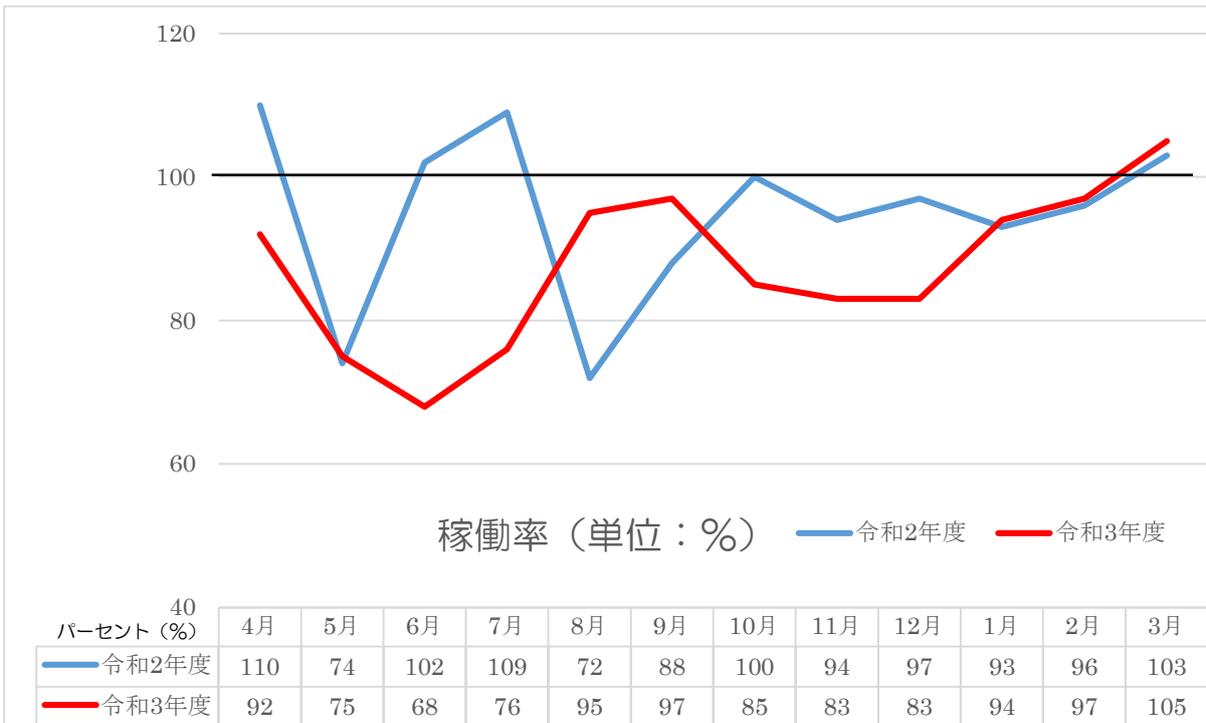
※5月、6月、8月、1月、2月（陽性者・濃厚接触者発生）

3 1日平均利用児数（名）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
9	8	7	8	9	10	9	8	8	9	10	11	9名



4 利用児稼働率 (平均稼働率88% 前年度比92%)



5 職員研修

日時	主催	内容	参加者
4月	事業所内	事業計画読み合わせ	上間、緑間、村本、福地、久保田、松田
		送迎に業務に関する研修	上間、緑間、村本、福地、久保田、松田
	カイポケ	ICT研修 (請求ソフト・業務ソフト)	上間、緑間、村本、福地、久保田

5月	事業所内	神経発達症について 強度行動障害	上間、緑間、村本、福地、友枝
6月	障がいのある子どもの放課後保障連絡会沖縄	「障がいのある子どもの発達する権利を守る」発達支援と保護者支援を通して（Zoom）	上間、村本、友枝、緑間、福地
7月	事業所内	障がい児虐待防止研修 身体拘束防止研修	上間、村本、緑間、福地
8月	事業所内	コロナウイルス感染症予防研修	村本、緑間、福地、友枝
	障がい者相談支援ネットワーク	沖縄県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者 基礎研修	村本
9月	障がい者相談支援ネットワーク	沖縄県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者 基礎研修	村本
10月	障がい者相談支援ネットワーク	沖縄県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者 基礎研修	村本
	すなばの会	「家庭での痼癩」事例検討	福地
11月	障がいのある子どもの放課後保障連絡会沖縄・ペーテルの夢	「虐待防止研修」 子どもへの暴力防止ワークショップ（Zoom）	上間、村本、緑間、内野、宮城、伊豆味、福地
	すなばの会	「子育て相談からはじまる子どもの発達支援」講演会	福地
12月	すなばの会	「一緒に勉強したいなあ」 授業中落ち着かない子への対応	上間、村本、内野、伊豆味、福地
2月	○障がいのある子どもの放課後保障連絡会沖縄 ○沖縄県障害福祉課・事業指導支援班	障害者虐待防止の更なる推進について	村本、上間、福地
		業務継続計画（BCP）策定について	村本、上間、福地
		沖縄県における神経発達へのリハビリテーションの現状と課題 ～療育支援者が最低限留意すべき事～	村本、上間、福地
3月	りたりこ発達ナビ	業務効率化に向けての請求について	上間、緑間、村本、福地

※「すなばの会」：浦添市の補助事業である発達障がい児者支援者の為の学習会、事例検討会

#### 6 会議・モニタリング・面談等・その他（回数）※Zoom会議・電話モニタリング等を含む

担当者会議	モニタリング	保護者会（ペーテル café） 面談等	放課後連沖縄 事務局会議	要保護児童対策 地域協議会・他
24回	25回	16回	12回	8回

※「障がいのある子どもの放課後保障連絡会沖縄（放課後連沖縄）」：障がいのある子どもの健やかな発達と地域生活の保障をする為の、交流・調査・研究・要望活動等を行う連絡会

令和3年度事業報告 部門名	報告者：氏名
ベーテルの夢Ⅱ	福地 泉
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（収益グラフ別紙参照）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 今年度は、保護者への利用調整を継続的に行うことで、児童募集定員達成時の7月から3月まで目標稼働率100%を維持することができた。</li> <li>2 4月の報酬改定にて昨年度比20%の収益減が見込まれたため、下記の対策を行った。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 全児童に係る相談業務の強化（家庭連携・機関連携）</li> <li>② 要保護児童の積極的な集客と既存の要保護児童の連携支援の強化 （この加算は浦添市・那覇市では当事業所がパイオニアとなった。） 要保護児童の加算については、相談支援として報酬改定以前から行政や学校と協力連携を行ってきた実績が評価され、収益としてカタチとなった。</li> </ol> </li> <li>3 コロナ禍ではあるが、地域学校・行政・機関グループへの繋がりを積極的に行った。</li> <li>4 多くの野外活動、体験活動を行うことで、自然活動による児童の免疫力向上に努めることができた。これを実施するために、職員一人ひとりが労を惜しまず働いてくれたことと、コロナ禍の中で事業継続が滞りなく行われたことは何よりの報告である。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「朝礼」を欠かさず行い、療育実践の根拠を聖書より学んだ。 「帰りの会」にて、児童に対する聖書を根拠とする療育実践を行ったことで、自分の言葉で祈ることが出来る児童が増えるなど、聞く・見る・話す力がついた。</li> <li>2 児童募集の定員が到達した7月（台風一日除く）以降、7月～3月まで利用稼働率100%</li> <li>3 子どもの強みを引き上げる自然環境を提供し、心地よい体験・心を動かす体験の強化を行い、自分自身と他者を大切にすることを育んだ。</li> <li>4 職員間で児童の情報共有を密に行い、児童のストレングスの発見を共有し、事業所と保護者、学校への連続的な支援を行った。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 毎日「朝礼」「帰りの会」を行った。</li> <li>2 7月より稼働率100%を維持できた。（グラフ別紙参照）</li> <li>3 地域の学校と連携を図り、ベーテルⅡにて健常児童と障がい児童の共生活動を行った。 （幼児・小学生・中学生・高校生ボランティア） アドベンチスト機関の幼稚園・小学校・中学校・教会などと交流を行った <ol style="list-style-type: none"> <li>① ベーテルⅡへの行事参加 2回/年</li> <li>② ベーテルⅡの療育参加 2回/年</li> <li>③ 教員との話し合い 3回/年</li> </ol> </li> <li>4 ホームページのブログ配信を月1回行い、QRコードを印字するなどの工夫をして、周知に努めた。</li> <li>5 職員研修として下記の取り組みを行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所講師による事業所内勉強会3回/年。</li> <li>・虐待防止（認定研修）1回・放課後連盟によるZOOM研修2回。</li> <li>・リタリコ発達ナビZOOM（研修動画）自主学習。</li> </ul> </li> <li>6 避難訓練2回/年・防犯訓練1回/年を実施した。</li> </ol>

IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 支援者会議（職員全員）通して、児童のアセスメントを行い、職員の資質向上と質の均てん化を行った。（1～2回/月）</li> <li>2 検温・健康状態の聞き取りを行い、送迎時の水際対策を徹底した。</li> <li>3 事業所に合わせたBCPと災害対応マニュアルは未作成。 次年度は避難場所へ実際に出向き、具体的な対応マニュアルを作成すると共に、BCPは紙ベースでの記録様式や感染症における業務継続を検討し、具体的なマニュアル作りを目指す。</li> <li>4 送迎や療育現場のマンパワーを適正配置し、加算人員などの調整を行うなど、細やかな個別対応ができるようにした。</li> <li>5 保険請求業務については、毎日の記録を実施し、適正な業務を行った。 事務業務については、集中できる環境調整が必要であるため、効率を考慮した環境調整を検討する。</li> <li>6 新しい事業に取り組む（保育所等訪問事業）際のマンパワーの見直しを行う。</li> </ol>
V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 関連医療機関（AMC）との業務連携は、コロナ禍により健康講話や歯科指導が中止となった。次年度はコロナ禍でも保護者会を開催して児童の健康教育（衛生・栄養・性教育）を企画・実施する。</li> <li>2 毎日の送迎時に学校の担任との情報共有を行った。 教育機関連携（各児童月一回）による継続的な支援体制の継続を行った。</li> <li>3 運動と心理士の講師による職員勉強会を3回/年実施したが、コロナ禍により中断した。 次年度に向けて職員・保護者会での企画を検討中。</li> </ol>
VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育所等訪問事業は資格要件が令和4年5月以降となるため、準備を行っている。</li> <li>2 国際人材交流センター（JAICA）との連携を模索したが、コロナ禍により中止。</li> <li>3 保護者会についてもコロナ禍により実施できなかった。</li> <li>4 地域の色々な場所（かぼちゃ畑・芋ほり体験・児童館等）に繋がったため、今後は継続と新たなつながりを模索する。</li> </ol>
VII	<p><b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 今年度はコロナによる学校休校が年間35日に上ったことで、休日支援収益として約40万の収益増となった。（平日604単位→休日721単位。休日（祝日）の単位は、平日単価より117単位増えるため、年間加算収益＝1名（117単位）×10名×35日＝409,500円）</li> <li>2 今年度は目標の徒歩圏内にある小学校の児童集客を行い、送迎にかかる時間・労力のコスト軽減を行った。</li> <li>3 未就学児3人が小学校入学となり、加配加算算定児童がいなくなることによる収益減に対して、保育所等訪問事業による収益増を検討している。（資格要件令和4年5月以降）</li> <li>4 事務作業の効率化については、環境面を含めて様々な可能性を検討して超過時間の軽減を図る。</li> <li>5 開所から2年が経過して、ようやく障がい児の事業内容が理解できてきた。組織は人であり、職員一人ひとりの存在や価値が療育をカタチにして事業所の基盤を据えていくため、次年度も引き続き職員一人ひとりの価値が生きるチームワークを目指し、安定した事業運営に努める。</li> </ol>

## 2021年度 延べ人数



2021年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	130	132	170	213	221	225	211	226	200	209	205	228
稼働率	82%	80%	92%	100%	100%	102%	100%	103%	103%	103%	102%	102%

7月は台風1日除く

※上記総収入グラフはコロナによる学校休校35日【6月（8日）・9月（8日）1月（15日）2月（4日）】休日加算収益＝おおよそ40万を含む

## 2021年度 総収入（保険請求+自費分）



月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総収入 (保険請求+ 自費分)	1,393,580	1,477,750	1,913,600	2,356,020	2,592,950	2,526,040	2,326,750	2,525,490	2,239,410	2,476,410	2,257,860	2,635,640